

Double issue with men's file 31

[クラッチマガジン]

クラッチマガジン 2025年2月号(季刊24日発売) 12月24日発売 第12巻 第1号 通巻72号

CLUTCH

Magazine

Authentic,
Borderless & Creative Production
2025 Vol.98

2

HERITAGE

Knitwear for Clutchman

上質なニットを着よう!



デジタル版には、表紙画像や目次に掲載している記事、
画像、広告、付録が 含まれない場合があります。
掲載情報は原則として奥付に表記している発行時のものです。
以上をご理解の上、ご利用ください。

CLUTCH
Magazine

AVIAKIT
TRADE MARK
PRODUCTS

Bar Italia
Est. d
1949



LEWIS LEATHERS TOKYO
3-27-17 Harajuku Street, Tokyo
150-0001 Tel: 03-6438-9215

LEWIS LEATHERS OSAKA
1-14-21 Minamihorie, Nishi-ku Osaka
550-0015 Tel: 06-6563-9001

ヴィンテージ ロードレースの 新境地



A.V.C.C.

American Vintage Champion Clubman Roadrace

アメリカンヴィンテージバイクがサーキットでスピードを競い合うA.V.C.C.レースが、去る11月10日に筑波サーキットで開催され、オールドVツインの乾いた響音が鳴り渡った。昨年までと様子が異なるのは、近年類を觀ないほどに多くの觀客が押し寄せたこと。新たな局面を迎えつつあるA.V.C.C.レース最終戦のレポートと共に、その大きな要因となるひとつのレーシングチームの活躍に注目したい。

The A.V.C.C. Race at Tsukuba Circuit on November 10, 2024, marked a turning point. Classic American motorcycles roared to life, their vintage V-twin engines echoing across the track. This year stood out—drawing an unprecedented crowd and signaling a new era for the race. Our spotlight falls on the racing team that played a pivotal role in this memorable event.

Photo by Kousuke Arai 新井康介 Yuta Kinpara 金原悠太 Text by Yuta Kinpara 金原悠太
JAPANESE CHOPPER RACING Instagram:@japanese_chopper_racing
A.V.C.C. 事務局 TEL090-2202-4074 <https://www.avcc1996.com> Instagram:@avcc1996



A.V.C.C.
American Vintage Champion
Clubman Roadrace

老若男女がサーキットに押し寄せた週末。



シリーズ最終戦の舞台である筑波サーキットはアマチュアレースの聖地として知られるコース。近年バイクレースは観覧を楽しむスポーツとしてはマイノリティな印象だったが、長瀬智也氏率いるジャパニーズチョッパーレーシングの活躍の影響もあり、サーキットのスタンドに観客が押し寄せ、レース全盛の時代の面影を少しずつ取り戻している様子が伺えた



日本の歴史あるクラブマンロードレースA.V.C.C.。96年からM.C.F.A.J.が主催し、アメリカ製ヴィンテージのみを対象とするレギュレーションが最大の特徴だ。昨今の日本のヴィンテージバイクシーンは世界から注目される一方で、オンロードレースに関しては、一般目線ではややニッチな印象なのが正直なところ。しかし、今回はレース中、コーナーによってはほぼ空席がないほどに多くの観覧者が訪れた。

その最大の理由は、様々なフィールドで活躍する表現者・長瀬智也氏がプロビルダーと共に結成したジャパニーズチョッパーレーシング（以下J.C.R.）の存在であることに疑いの余地はない。サーキットを盛り上げることを目標に掲げる彼らが思い描くのは、一過性のブームではなく、レースをモータースポーツとして大衆に根付かせること。決して簡単なことではないだろう。しかし、J.C.R.が夢見る、週末に老若男女がサーキットを訪れ、レースに熱狂する情景はいちバイクファンとしてロマンを感じずにはいられない。後頁のインタビューではJ.C.R.結成に込められた思いを伺った。レースが大衆の趣味として浸透する未来の実現を目指す、レーサーたちの言葉に耳を傾けてみてほしい。



A.V.C.C.はショベルヘッド以前の車両を対象に年式や装備、モディファイの度合いでクラス分けされ、レギュレーションが細かく設定される。シリーズ全体の順位は年間の総合ポイントで決定。ヴィンテージの世界観を重視するレースだけに、H-DやIndianのフラットヘッドが競うトラディショナルなクラスや、4カムのスポーツモデルに限定したクラス、また、H-Dショベルヘッドの市販モデルを対象とする世界的にも珍しいレギュレーションが設けられる



エントリー車両にはMCFAJのレギュレーションに沿った車両であることを証明するステッカーが配られる。外装にステッカーが並ぶ様はAVCCの経験値の証である

MCFAJ主催のLOCやMax Groupも同日に開催。AVCCに参加したJCSの長瀬氏と西田氏は、より高年式なスポーツバイクが競うMax Groupのレースに数少ないH-Dでエントリー



(上) H-Dファクトリーレーサー XR750やスポーツスター 883を対象とするCSSCを制したのはファーストアローズ伊藤氏。ビッグツインのショベルヘッドが参戦するFSCRと混走で、JCR伊藤氏との熾烈なバトルが注目を集めた。(下) H-D、Indianが競うMODIFIED-B CLASSはNATURAL STEEL WORKS田邊氏が頂点に輝いた

かつてのサーキットの
熱狂を夢見て。



Tomoya Nagase #47

CHALLENGER RACING

JCRの立役者であり、ロックバンド
KODE TALKERSのボーカリスト／ギ
タリストとして活動する長瀬智也氏。
A. V.C.C./FSCR最終戦3位に輝き、Max
Group/Max-10にもXR1200で参戦。
長瀬氏のレースへの情熱がサーキットに
革命の兆しをもたらしている



What's Japanese Chopper Racing?

サーキットのバイクレースを盛り上げ、レースの魅力を広く伝えるという目標の下に、
JOYRIDE SPEED SHOP西田裕氏、CHALLENGER RACING長瀬智也氏、
ROUGH MOTORCYCLE GARAGE伊藤毅氏が集い結成したレースチーム。
バイクブーム全盛のサーキットの熱狂を夢見て3人のレーサーは走り続ける。
全てはスピードに魅せられし先人たちが築き上げた
日本のレースシーンを守り、発展させるために。



ショベルヘッドまでの車
両を対象とするFSCRク
ラスの表彰台をJCRの
3名が独占。「1-2-3フィ
ニッシュは自分たちも予
想外だけど、レースの神
様がちょっとだけ俺たち
に笑ってくれたのかな。
だからレースはやめられ
ない」と長瀬氏は語った



Yutaka Nishida #77

JOYRIDE SPEED SHOP

圧倒的なスキルでFSCRの首位のポジションを守り続けるJOYRIDE西田氏。JCR内で最も長い約20年のレースキャリアを誇るJCRの大黒柱と言える存在。Max 4のレースは残念ながら車両トラブルによりリタイアになったが、欧州のスーパースポーツにH-Dで挑む姿は注目の的となった



Takeshi Ito #52

ROUGH MOTORCYCLE GARAGE

横浜の旧車専科ROUGHの伊藤氏は混戦となるCSSCクラス首位のレーサーを抑え、西田氏に次いでゴールを切った。両者クラス順位には影響ないものの、観客にとってはビッグツインシヨベル vs ファクトリーレーサー XR750のバトルはAVCC最終戦のハイライトの一つと言える

A.V.C.C.
American Vintage Champion
Clubman Roadrace



バイクレースが
教えてくれること。

——JCCR結成の経緯を教えてください。

長瀬／元々3人とも異なるチーム

JCCRが目指す未来。

で出場していたんですが、3人の共通していることがツアラーキングのオールドハイレードレースをやっていることと、サーキットを盛り上げたいという気持ち。あとはなんといっても誰よりもレースを楽しんでいるところです。なかなかレースは誘うようなものでもないのが奇跡的に3人が集まったのなら一つのチームにまとまろうといった経緯で作りました。

西田／カスタムショーの企画を通じて長瀬君とやりとりしている時によくレースの話をしていて、長瀬くんが改めてレースフィールドに戻ろうとしていることが素直に嬉しかった。それで、以前から親交があった毅（伊藤氏）と長瀬君が仲良いことを知っていたから、3人で練習できるじゃんって、そこからウチで集まったり、練習するのが恒例になって、話が進んでいきました。自分たちがレースを楽しめるこの時間を大切にしたいのはもちろんですが、レースを守っていく意味でも興味を持つ人を増やすために、シーンを盛り上げ

ていく活動を考えています。

伊藤／3人で80年代の筑波サーキットの映像を見た時があるのですが、筑波サーキットの観客席が埋まっていたんです。今、野球や相撲はテレビで放送されても、バイ

クのレースはなかなかない。

休日に野球を観に行こうとか、デイズニードランド行くみたいなのりで、サーキットにレースを観に行こうっていう選択肢が普通になつたら最高ですね。僕たちはレースの楽しさを実感しているからこそ、この世界を広めたいし、先輩たちが守り続けてきてくれたものを守っていききたいという思いもあります。レースがモータースポーツとして一般に認められて、サーキットのスタンドを見に来てくれる皆さんで埋め尽くすことが一つの目標です。

——ウィンテージハイレード速さを競うレースに挑む理由とは？

西田／旧いハイレードは現行車に比べてた性能に足りていないものが色々あって、それを人間が補って走る必要があります。自分とバイクに合うパーツやチューニングを見つけて走るのが、新しいバイ

クとは異なる楽しさですね。

長瀬／旧いハイレードってものすごいクセが強いバイクなんです。しかも今回走ったFSCRのクラスで言えば、アメリカの旅をするために生まれたバイクでスピードを競うわけです。旧いハイレード

で、車体的にも技術的にも好きなバイクで速く走れるようになる過程を楽しんでいます。

——危険が伴うレースを続けるモチベーションは？

西田／前回の自分を越え続けたいっていうことですね。それがわか



左／ROUGH MOTORCYCLE GARAGE伊藤毅氏、中央／CHALLENGER RACING長瀬智也氏、右／JOYRIDE SPEED SHOP西田裕氏。3人共チョッパーを愛することがチーム名の由来

と今のレーサーのようなパワーはないですし、そのパワーを使い切って走る気持ち良さがあります。伊藤／単純に好きなバイクで走りたいっていうことと、その難しさを楽しんでいます。タイムだけ速くなれば良いわけではない気がし

りやすくタイムで出るのがサーキット。僕はバイクを作るし乗るのテストも含めて、以前の自分をちょっとでも超えたいし、上手になりたいと常に思っています。伊藤／なんでレースをやるかって、シンプルに楽しいからです。40代

後半になってもまだオートバイが上手に乗れるようになりたいと思っていて……（笑）。チームで切磋琢磨しながら挑戦して、ライバルであり仲間でありついで遊びを楽しんでいるのかな。西田さんからサーキットのレースの魅力を教えてもらって、要はハマっちゃったわけです。一緒に走る仲間もいるし、今となつてはやらない理由が見つからない。

長瀬／二人が言った通りですが、同じことの繰り返しではなく、過去の自分を越えようとするのが大事なのは自分の仕事にも共通するからすごく共感します。レースはある意味自分の走りをクリエイトすること。そういう意識の人が作る作品は素晴らしいわけがない。だからやっぱり彼らの作るバイクは僕にとっては最高で、そういうモノや気持ちに日々感動させられているんです。

——JCCRの今後の展望を教えてください。

長瀬／あくまでもAVCCのオールドモータークラスのレースを守ることが前提ですが、色々なレース、耐久レースなどにチャレンジしたり、イベントを主催したり、アイデアが出てくる限り具現化していきたいと思っています。今までレースをやっていたけどやらなくなってしまう人や、バイクに全く乗ったことのない人たちにまで、僕らのレースを楽しんでいて姿が届いたら嬉しいです。

#47

H-D PANHEAD

Racer/Tomoya Nagase

JOYRIDE西田氏の長年のレース経験によるノウハウを落とし込んだパンヘッド。シートやステップ、ハンドル位置などオーナーである長瀬氏の体型に合わせて入念なポジション調整が行われている。心臓部はFSCRのレギュレーションである88ciに合わせてストロークダウンしたS&S製パンヘッドで、ヘッドはバルブ周りやポートのファインチューンが施される高回転仕様。LOVE EAR ARTによる'80s STREETをコンセプトとしたカスタムペイントがアイデンティティ



#77

H-D SHOVELHEAD

Racer/Yutaka Nishida

純正ヘッドにこだわり、西田氏が自身の愛機としてビルドしたショベルヘッド。S&Sのケースにビッグボアシリンダーを採用し排気量は88cu.inに設定。車高のハイアップやステップ位置、マフラーの形状などバンク角を稼ぐためのディテールが特徴。ショベルヘッド用のハイカムを採用する高回転仕様だが、他の2台に比べてミッドレンジのトルクがやや細いスベックのため、極力スピードを落とさずにコーナーを走り抜ける乗り手のテクニックが要されるストイックな1台



#52

H-D SHOVELHEAD

Racer/Takeshi Ito

ROUGH伊藤氏がビルドしたショベルヘッドレーサー。S&Sケース、クランクにビッグボアシリンダーを採用する排気量88cu.in。前回までは純正ヘッドをモディファイしていたが、今回はヘッドをS&Sに変更し、エボリューション用に近いハイカムをインストール。ステップ周りはワンメイトで、経験値を重ねる度に必要なバンク角に合わせてフロントフォークやリアサスペンションの延長を重ねた、オーナーと共に進化するレーサーだ



A.V.C.C.
American Vintage Champion
Clubman Roadrace

Reflecting on 2024, First Arrows invites you to celebrate your journey.
Whether this year brought success or challenges, honor your experiences.
Reward yourself or share gratitude with your loved one.
With First Arrows' heartfelt wishes,
we hope 2025 brings you good fortune and joy.

Silver Selection

First Arrow's

2024年はみなさんにとってどんな1年だったでしょうか。
今年は最高だったという人は自分へのご褒美として、
今年は散々だったという人は来年の奮起を誓う証として、
そしてまた、最愛のパートナーへの愛と感謝のプレゼントとして。
身につける全ての人に幸運が訪れるようにと願いが込められた
ファーストアロースのアイテムとともに最高の2025年を。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Text by Tamaki Itakura 板倉環
ファーストアロース原宿店 Tel.03-3479-8818 <https://firstarrows.shop>

- 1.P-704R + P-351 (40) + O-062 + P-077
(55cm) ¥123,700
- 2.P-569L + P-519L + P-389 + O-063
+ P-077 (55cm) ¥153,100
- 3.BR-CUS-002 ¥51,600
- 4.BR-026 ¥48,500
- 5.R-071 ¥40,900
- 6.R-001 ¥22,600

聖なる夜にシルバーを。

Standard Items

1996年の誕生以来、高い技術力とデザイン性で人気を呼び、現在は原宿、京都、福岡に直営店、また、国内外に多数の取り扱い店舗を持つなど、日本のトップブランドの地位を確立。その実力を知るならまずは長年の定番アイテムだ。

1.P-512 + O-063 + P-077B ¥438,300
2.P-401 + P-356L + O-062 + P-077B ¥276,900
3.BR-206 ¥107,100
4.P-509 ¥103,600
5.P-595 ¥49,100

Winter



Eagle

ネイティブアメリカンスタイルをルーツに持つファーストアローズ。定番モチーフながら卓越した技術を用いたイーグルやフェザーは、シルバージュエリーがゴツくてワイルドという一般的なイメージを覆す繊細で美しい仕上がり。

- 1.P-211 + O-283 (3) ¥112,300
 2.P-217 + O-280 (3) ¥89,000
 3.BR-067 ¥80,400
 4.P-190 ¥40,000
 5.P-189 ¥40,000
 6.P-196 ¥31,100
 7.P-195 ¥31,100
 8.P-197 ¥19,300
 9.P-191 ¥29,700
 10.P-187 ¥38,100
 11.P-186 ¥65,500
 12.P-199 ¥13,100
 13.P-198 ¥16,100



Arrow

イーグルとともに創業時から人気なのがオリジナルモチーフ・アローシリーズ。デザインは多種多様で、単品ならシンプルに、他アイテムと組み合わせればゴージャスに。アレンジ次第でガラリと変わる雰囲気も楽しんで見てほしい。

for Lady

上品な仕上がりが特徴のファーストアローズ作品のなかには定番モチーフでも小さいサイズだったり、ハートやフラワーをモチーフとした女性にも身につけやすいアイテムも多数ラインナップ。愛する人へのプレゼントとして最適だ。

- 1.R-086pink ¥13,400
- 2.R-087pink ¥13,400
- 3.O-008 ¥30,800
- 4.O-253 ¥19,200
- 5.P-230 ¥5,800
- 6.P-260 ¥6,900
- 7.P-259 + P-594R + O-140 (1) ¥80,700
- 8.P-605L + O-140 (1) ¥105,700



※2025年1月8日以降価格変更となります。



Actor : YASUAKI KURATA

Photo : MASAYA KATO



PRODUCED BY BLACK SIGN



blacksign.jp



instagram

EVENT

Vintage&Antique Dry goods Market

ヴィンテージ&アンティーク ドライグッツマーケット

from: Japan date: 2025 January 98

Vintage enthusiasts, mark your calendars!
 Gallery MORSEL in Setagaya Daita will host a remarkable
 Vintage & Antique Dry Goods Market on January 12-13.

This extraordinary event brings together
 two renowned stores: 19_MILITARIA,
 a British shop run by Simon—a young expert in pre-1950s vintage—and BURMA SHAVE from Toyama,
 featuring Tokunoh's expertly curated selections from the U.S. and France.
 It's a rare chance to explore unique vintage treasures from British, American, and French collections.



1. 1940年代のWESCOTのショップコート 2. 1920年代の英国
 トレンチコートは圧倒的な存在感 3. 第二次世界大戦時に英国
 で施行されたCC41のシャツ 4. 貴重な1940年代のUSMCの
 ダックハンターカモ 5. センスの良いフェルトパッチが光る193
 0年代頃のスウェット 6. 1920年代のフレンチのブラックリネ
 ンコート。デッドストックというスペシャル

no 01

日英の名店を体感できるスペシャルイベントが開催！

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Text by Shuhei Sato 佐藤周平

来年の1月12、13日に日英の名店が集う Vintage&Antique
 Dry goods Market が、世田谷代田にあるギャラリー MORSEL
 で開催される。参加するのは、20代ながらも50年代以前のトウ
 ルーヴィンテージに精通するサイモンが手掛ける英国の19_MILI
 TARIA と、富山を拠点に凄腕バイヤーの得能氏がアメリカとフ
 ランスにて買付を行う名店 BURMA SHAVE。前者がブリティッ
 シュ、後者がアメリカとフランスと、様々な年代と国のヴィンテ
 ージが一堂に介する。人気の両店が東京で邂逅するというまたと
 ない機会なので、お見逃しなく！



MORSEL

東京都世田谷区代田 5-9-7
 開催時間は両店の
 Instagramにて告知予定
 @19uj_militaria
 @burmashave_gentsattire

PHOTO : ARCHIVAL CIRCA 1954 / FRAME : SC JD 44 / AUTHORIZED : CMG LICENCING GLOBAL

James Dean
EYEWEAR COLLECTION

Shady
CHARACTER NYC

ORIGINAL & AUTHENTIC
HANDCRAFTED WITH PRIDE

PRIVATE EYES & TRACKERS

THE LIGHT CO. LTD. FROM FIRST BUILDING, #206, 5-3-10 MINAMIAOYAMA, MINATO-KU, 107-0062, TOKYO.
THE LIGHT CO. LTD. IS THE AUTHORIZED GLOBAL LICENSOR OF JAMES DEAN EYEWEAR



PRODUCTS

Shady CHARACTER James Dean Eyewear Collection

シェイディー・キャラクター／ジェームズ・ディーン・アイウェア・コレクション

from: USA date: 2025 February 98

In the 1970s, Shady CHARACTER, an eyewear brand born in a select store in New York, began by sourcing dead stock frames.

Later, they collaborated with Mr. Tart, who eventually founded JULIUS TART OPTICAL, to create original designs. In 1979, they launched the James Dean Eyewear Collection, featuring the Arnel (now AR), famously worn by James Dean in the 1950s. However, due to copyright issues, the collection was short-lived, making the model a rare and coveted piece.

Recently, the James Dean Foundation granted IP rights for a complete reissue of the original collection.

This luxurious box set includes the frames, clip-on lenses, and exclusive accessories.

Crafted with high-quality Japanese titanium for the metal parts and core wires, it faithfully replicates the original design and vintage American aesthetic, making it a must-have for fans and collectors alike.



豪華なアルミボックスに収納された当コレクション。付属品には専用革ケース、クリップオン専用革ケース、トートバッグ、キーチェーン、アートブックなど豪華。13万2000円



no 02

幻となっていたジェームズ・ディーンモデルが満を持して復刻。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Text by Tamaki Itakura 板倉環
PRIVATE EYES & TRACKERS Tel.070-6447-2666 <https://privateeyesandtrackers.com>

1970年代、N.Y.のセレクトショップから生まれたアイウェアブランド、Shady CHARACTER。デッドストックを中心に買い付け、のちにJULIUS TART OPTICALを手掛けるタート氏とタグを組みオリジナルアイウェアの展開を開始する。1979年には、俳優ジェームズ・ディーンが、1950年代に実際に愛用していたArnel（現AR）をJames Dean Eyewear Collectionとして発売するも、当時版權に問題があり、短期間の販売に終わり

幻のモデルとなってしまった経緯がある。時を経て、2023年秋、ジェームズ・ディーン財団からIP権利を取得し、当時のモデル、James Dean Eyewear Collectionを完全復刻をローンチ。フレームとクリップオンレンズ、そしてスペシャルな小物たちが付属した豪華なボックスセットで販売。メタルパーツやコアワイヤーは日本産の高品質なチタン製。当時のシェイプ、アメリカンヴィンテージな雰囲気感を忠実に再現したファン陶醉の逸品だ。

Bilt Buck BY ATTRACTIONS

HORSEBUTT ENGINEER BOOTS

"THE PIONEER"

FIRST CHOICE FOR PERFECT FIT
AND APPEARANCE!

QUALITY IN  EVERY STITCH

AUTHENTIC LEATHER PRODUCTS



attractions.co.jp

PRODUCTS

NIGEL CABOURN
BIOGRAPHY

ナイジェル・ケーボン バイオグラフィーブック

from: 14K date: 2025 February 98

To celebrate his 50th anniversary as a designer, world-renowned vintage collector and designer Nigel Cabourn has released his first biography, "VINTAGE NIGEL CABOURN". The book is published in Japanese, English, and Chinese, featuring a luxurious hardcover crafted from ventile fabric synonymous with Cabourn's brand. It includes long interviews tracing his life from childhood to the present, his experiences in Newcastle, England—where his brand is based—plus detailed accounts of his travels in London, Hong Kong, Japan, and beyond. The book also showcases the brand's early items and about 250 carefully selected pieces from Cabourn's vast vintage collection of around 4,000 items over the past 40 years. "VINTAGE NIGEL CABOURN" is a must-have for collectors and a permanent addition to anyone's library.



デザイナーとして50年以上に渡り活躍してきたナイジェル・ケーボンについて深く掘り下げた彼を知るためのバイブル。所有する希少なヴィンテージコレクションだけでなく、初期プロダクトも必見。¥19,800_

no 03

Nigel Cabournを知る永久保存版のバイオグラフィー。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Text by Tamaki Itakura 板倉環
OUTER LIMITS Tel.03-5413-6957 <https://cabourn.jp>

世界的なヴィンテージコレクターとして名高く、自身の名を冠するブランド、Nigel Cabournのディレクターとしても知られる彼はデザイナーとして50年以上にわたり活躍してきた。その記念として刊行された初のバイオグラフィー『VINTAGE NIGEL CABOURN』。テキストはすべて日・英・中の3カ国語を併記し、「Nigel Cabourn」の代名詞でもあるペンタイルを使用した豪華ハードカバー版。幼少期から現在に至るまでのロングインタビュー

ーや拠点とするイギリス・ニューカッスルでの生活に加え、ロンドン、香港、北京、日本などの旅の密着取材。またブランド初期のアイテムや、40年かけて収集した約4000着の膨大なヴィンテージコレクションから厳選した約250点が掲載される。75歳を迎える現在でも自身が手がける「Nigel Cabourn」の原動力、インスピレーション源として世界を旅する彼の人生そのものが詰まった『VINTAGE NIGEL CABOURN』。永久保存版だ。



-Button Works-
MADE IN JAPAN

<https://buttonworks.jp/>





003

A.V.C.C.

American Vintage Champion Clubman Roadrace

ヴィンテージロードレースの新境地。

010

Winter Silver Selection 聖なる夜にシルバーを。FIRST ARROW's

015

CLUTCH POST

from JAPAN_Vintage&Antique Dry goods Market

from USA_Shady CHARACTER James Dean Eyewear Collection

from UK_NIGEL CABOURN BIOGRAPHYBOOK

022

特集

Knitwear for Clutchman

上質なニットを着よう!

No.1_Wool Sweater. 2024 Winter Collection

No.2_Vintage Sweaters

No.3_From CLUTCH CAFE in LONDON

044

下半身にも個性を。pure blue japan

046

The Portrait GLAD HAND & Co.

050

Superior Boots Collection BLACK SIGN

054

国や時代を超えたコンテンツボラリーなブーツ。CLINCH

056

このブーツに最適な素材は何か? ROLLING DUB TRIO

058

カスタムオーダーはブーツの真骨頂。WHITE'S BOOTS

060

旧きよき時代の職人氣質。Orgueil

062

冬の最終兵器、それがミリタリー。The REAL McCOY'S

066

100年の時を超えていま蘇る。PREQUEL

068

Art Frames Nick Clements

069

My Sweet Watch Vol.39_1950s Universal Geneve Tri-Compax "Spillino"Ref.22297-3

070

青と碧の世界。CORNERS

072

The VINTAGE & Brandnew Vol.98

074

Glasses That Enhance Your Style!! DIGNA Classic

076

本龍甲 BLACK SIGN

078

ライフスタイルを彩るジュエリー。Horizon Blue

082

"ORE TO MONO" vol.40

084

YOUNG GUN MEETS OLD CLOTHING Vol.47 Woolrich MACKINAW JACKET

091

The Collectors

Vol.39 Persian Rug

What is a Clutchman? クラッチマンとは……。

いつの時代も変わらないスタイルが好きで、モノ選びには強烈なこだわりを持ち、その集合体が独特のライフスタイルを形成する。50年前から存在し、50年後も受け継がれていくようなモノに刺激を感じ、たとえニットと思われても、好きなものには我慢がきかない。そしてカッコよく働き、カッコよく遊ぶ。そんな男をクラッチマンと呼ぶ



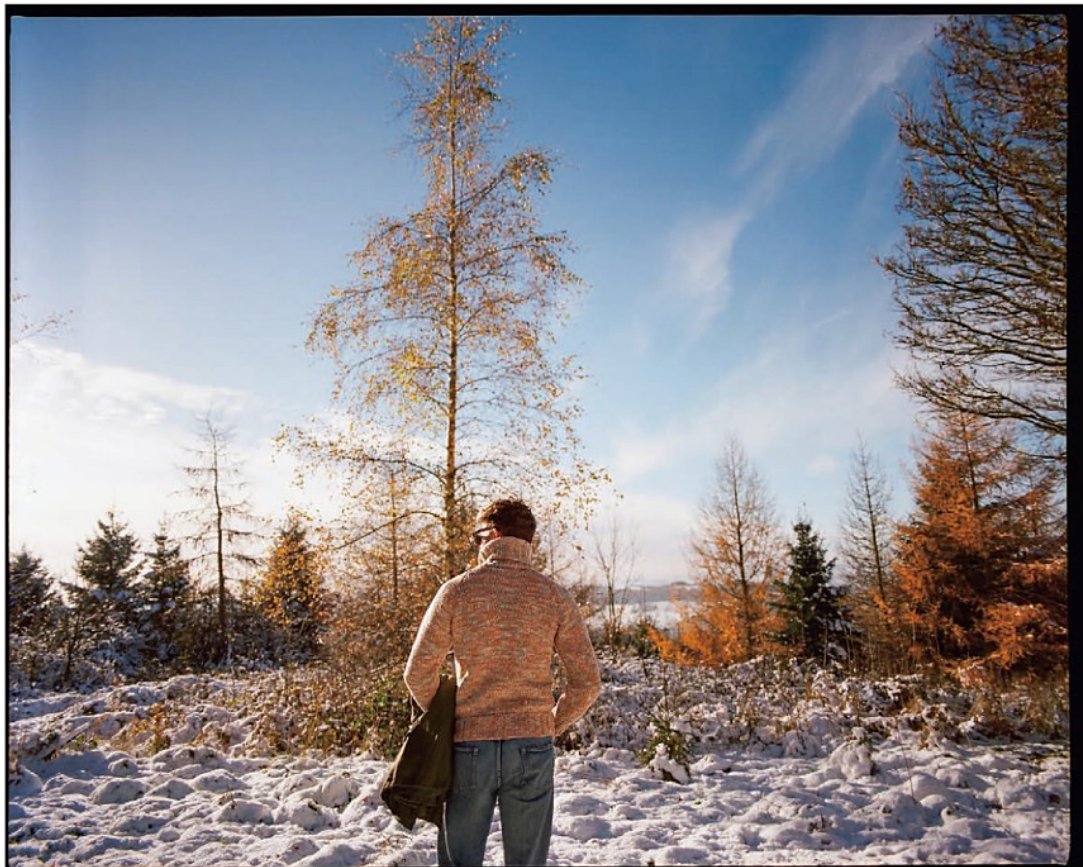
この秋、出版されたナイジェル・ケーボン氏のバイオグラフィック『VINTAGE NIGEL CABOURN』の中で掲載された、故郷ニューカッスルでの一葉。彼ほどニットの着こなしに長けている人はいない! と確信する

Model/Nigel Cabourn
https://cabourn.jp/
Photo by Eisuke Yamashita (MON ONCLE)
Design by Ayaka Goto

■発行人: 武井宏員 ■編集長: 松島睦 ■編集: 三浦正行、小川高寛、藤井葵、高野周平 ■広告部: 岩田和也、山下徹也、今西一記、塩田航洋 ■販売企画部: 近田耕太郎、手塚治郎、森田祐介、須永剛



Knitwear for



Winter style isn't just about a great coat. Knitwear is the true hero of cold-weather fashion.
Natural fabrics provide unmatched comfort and warmth,
making them a must-have for discerning dressers.
"Clutchman" with true style know: winter isn't complete without the perfect knit.

上質なニットを着よう!

冬の服と言うとアウターに注目が集まる。しかし、アウター一枚だけでは済まない。
冬だからこそこだわりたいのがニットだ。
天然素材特有の心地良さや上質感、そして何より暖かい。
モノやスタイルにこだわるクラッチマンが選ぶのは、真冬にはニット!
ニットなしでは冬を語れない。

Photo by Shinju Hitomi 人見心珠

Clutchman

The REAL McCOY'S

The REAL McCoy'S TOKYO
Tel.03-6427-4300 <https://therealmccoys.jp>

カーディガン ¥79,200_
ジャケット ¥44,000_
シャツ ¥52,800_
パンツ ¥57,200_
ベルト ¥22,000_
ブーツ ¥154,000_
／すべて The REAL McCoy'S

The season is here when warm wool products become indispensable.
Sweaters, versatile as both innerwear and outerwear, are a winter essential.
They offer the timeless appeal of natural materials
and the charm of their evolving texture over time.

Wool Sweater. 2024 Winter Collection

温かいウール製品が手放せない季節がやってきた。
インナーとしてもアウターとしても活躍してくれるセーターは
天然素材ならではの風合いと経年変化を楽しめる冬の定番だ。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Text by Tamaki Itakura 板倉環
Model by YUTO

Knitwear for Clutchman WOOL SWEATER.

Buzz Rickson's

TOYO ENTERPRISE

Tel.03-3632-2321 <https://www.buzzricksons.jp>

コート ¥64,900_
ライナー ¥39,600_
セーター ¥53,900_
パンツ ¥35,200_
ニットキャップ ¥7,590_
／すべてBUZZ RICKSON'S

JELADO

JELADO
Tel.03-3464-0557 <http://www.jelado.co.jp>



カーディガン¥107,800_、レザージャケット¥198,000_ (サイズによりプライス変動あり)、カットソー¥14,080_、パンツ¥27,500_ /すべてJELADO

Knitwear for Clutchman WOOL SWEATER.

GLAD HAND&CO.

GLAD HAND CORE
Tel.03-6438-9499 <https://glad-hand.com/>



ムートンジャケット
¥393,800
セーター ¥44,880
パンツ ¥40,480
バッグ ¥18,480
ジュース ¥43,780
すべてGLADHAND

WEARMASTERS

Attractions
Tel.03-3408-0036 <https://attractions.co.jp>



カーディガン¥48,400_
パンツ¥36,300_
／ともに WEARMASTERS
レザーコート¥264,000_
ブーツ¥140,800_
／ともに BILTBUCK

BLACK SIGN

BLACK SIGN
Tel.052-734-6914 <https://blacksign.jp>



ニットカーディガン
¥49,500_
パンツ ¥30,800_
／ともにBLACK SIGN

BY GLADHAND RED GENT-JEEP KNIT

¥44,880_

GLAD HAND CORE

Tel.03-6438-9499 <https://glad-hand.com/>

U.S.MILITARYのジープニットをベースにシェットランド島の貴重なウールを太く紡績した糸を贅沢に使用。ウール特有のオイリーさを損なわないようノンウォッシュで仕上げた



JOE McCOY STRIPED SHAWL COLLAR CARDIGAN

¥79,200_

The REAL McCOY'S TOKYO

Tel.03-6427-4300 <https://therealmccoys.jp>

JOE McCOYネームが付けられたショールカラーカーディガン。3ゲージ太番手でざっくりと肉厚に編まれたウールニットに大型の襟、袖、ポケットに配したラインが印象的



Cotton
Knit**MISTER FREEDOM × SUGAR CANE**
INDIGO - KNIT "BRIDGE" SWEATER

¥46,200_

TOYO ENTERPRISE
Tel.03-3632-2321 <https://www.misterfreedom.com>

1960年代のUSNデッキセーターをベースにデザインされたインディゴセーター。伝統的な海軍スタイルであるハイネックや折り畳み可能な長いリブ編みニットカフスが印象的

**JELADO**
MOHAIR CARDIGAN
"COBAIN"

¥66,000_

JELADO
Tel.03-3464-0557 <http://www.jelado.co.jp>

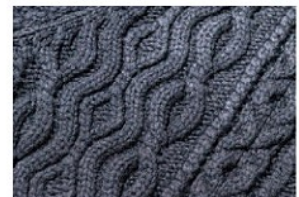
原毛の細いキッドモヘアを贅沢に使用したカーディガン。生地が痩せて薄く感じないように、ギリギリまで起毛を掛け、肌に刺さらない最高の着心地を実現した軽くて温かい極上の逸品

**gold**
SABLE LOW GAUZE
ZIP SWEATER

¥107,800_

TOYO ENTERPRISE
Tel.03-3632-2321
<https://www.gold-toyoenterprise.jp>

セーブル混の上質な素材を使い、ローゲージで丁寧に編み上げたカーディガン。フロントには希少なアメリカ製デッドストックの通称ロケットタロンと呼ばれるファスナーを使用



HIDEHIKO YAMANE

Argyle Sweater

¥220,000_

YAMANE JAPANESE DENIMS NARA
Tel.080-1365-0501 <https://yamaneart.base.shop>

英国伝統のニットイングミルズ、CORGI社にスペシャルオーダーをかけた1枚。ラムズウールの最高峰、スーパージーンロンを採用したハンドインターシャによるアーガイルニット



J.PRESS ORIGINALS

Shaggy Dog Sweater

¥33,000_

J.PRESS MEN J.PRESS & SON'S AOYAMA
Tel.03-6805-0315 <https://crosset.onward.co.jp>

J.PRESSの冬の定番ニットで知られるシャギードッグセーター。生地表面をアザミの実で毛羽立たせ、フワフワな表情をつけたスコットランドのシェットランドウールニット





**BUZZ
RICKSON'S**
SWEATERS, WOOL,
TURTLE NECK, O.D.

¥53,900_

TOYO ENTERPRISE
Tel.03-3632-2321
<https://www.buzzricksons.jp>

1930年代に米陸軍が採用した
タートルネックセーターを再現。
リブ使いや前身頃と後身頃は縦
の編み目に対し、運動量と負荷
の掛かりやすい肩と裾は横の編
み目にするなど計算されている



GYPSY&SONS
Whole garment
lettered crew

¥29,700_

ASDIC Inc.
Tel.0586-45-0625
<https://gypsy-sons.jp>

和歌山の島精機製作所にて完全
無縫製型横編機で編み立てたホ
ールガーメントニット。フロン
トのフェルトシニールワッペン
や袖口と裾のリブを折り曲げて
使用するクラシカルな仕様



**STEVENSON
OVERALL CO.**
Geometric Alpine
Sweater

¥36,080_

TOPANGA
Tel.03-6805-0870 <http://www.soc-la.com>

クラシカルなノルディック柄を
ヴィヴィッドな配色で表現。ざ
っくりとしたウールの特有の風
合いとすっきりとしたフォルム
が、スタイリングにひと華添え
てくれる1枚になるはず

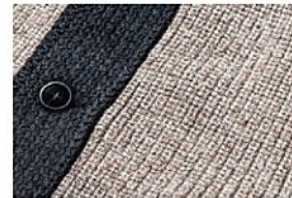


BLACK SIGN
1920s Byron Collar
2-tone Sweater coat

¥49,500_

BLACK SIGN
Tel.052-734-6914
<https://blacksign.jp>

1920年代に流行したバイロ
ン・カラーのセーター・コート。
襟の開け閉めによって異なる印
象に変化し、ボタンには天然の
タグワ椰子のナット・ボタンを
採用したクラシカルな1枚



Pherrow's

Made in Nepal Hand Knit Cardigan

¥38,500_

Pherrow's

Tel.03-5725-9577 <http://www.pherrows.com>

ヴィンテージキルトからインスパイアされた柄をイメージしたネパール産ハンドニット。フロントに使用される釦はバッファローの骨から手作業で作られたボタンを採用している



Dehen

Knit Club Jacket

¥104,500_

Dehen Japan

Tel.03-5752-3188 <http://www.dehenjapan.com>

Dehenが長年作り続けている伝統のヘビーウェイトニットをマテリアルに使用したヴァーシティジャケット。内側にはサテンライニングを装備し、ボタン仕様がクラシカルな印象



It's
Weaving

Knitwear for Clutchman WOOL SWEATER.



John Gluckow 1920s to 1932 Winter Hunting Coat

¥137,500_

WAREHOUSE TOKYO
Tel.03-5457-7899
<https://ware-house.jp>

ヘビーなウールファブリックを使用したハンティングコート。開口部がひとつのみというユニークな設計と機能的なポケットが目を惹く。フロントにはオリジナルナットボタンを装備する



WEARMASTERS Combination Knit Cardigan

¥48,400_

Attractions
Tel.03-3408-0036
<https://attractions.co.jp>

ボディには伝統的素材のシロップシャーウールを採用。オイルカットのような質感で、毛玉になりにくくヴィンテージを思わせる肌触り。ニットと布のバイカラーがポイントとなっている



Orgueil Command Sweater

¥34,100_

M'ARIJUAN OMOTESANDO
Tel.03-5774-6479 <https://www.orgueil.jp>

1910年代のショールカラーニットをモチーフにシェットランドウールを天竺編みで編み上げたセーター。クラシカルなデザインで、フロントボタンにはナットボタンを使用している



BONCOURA Fisher Man Sweater Shetland Wool

¥55,000_

SALON BONCOURA
Instagram @ boncoura_official
<https://boncoura.jp>

希少なシェットランドウール特有の風合いを損なうことなく染色し、未脱脂で編立てたクラシカルなシェットランドセーター。武骨な風合いはもちろん、肉厚なことから防寒性も高い



The charm of this product lies
in the unique aging of natural materials.
Vintage sweaters offer a distinctive texture and,
of course, the rich, faded colors that come with time.

Vintage Sweaters

堂々とした佇まい、
美しい経年変化に心酔する。

天然素材ならではのエイジングが魅力の
ヴィンテージセーターは生地との風合いはもちろん
褪せた特有の色合いで楽しませてくれる。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Styling by Manabu Harada 原田学
Text by Tamaki Itakura 板倉環



発色が美しいサックスの1960年代製モヘアVカーディガン。パール編みのような感じで、生地の表面の毛羽立ちがクルッとカールする可愛らしい表情を見せる。¥44,000_

ミスターグリーン
Tel.090-2206-1755
<https://kurikurivintage.shop-pro.jp>



裾がリブで絞られ、腕がゆったりとしたシルエットのゴルフカーディガン。1960年代製のCAMPUSのタグには、MOHAIR75%、WOOL25%の表記が入る。¥25,300_

ドラセナ吉祥寺本店
Tel.0422-26-9366
<http://www.e-dracaena.com>



1960年代製のpuritanのタグには「75% FINE WOOL 25% MOHAIR」と表記。ざっくりしたリブ編みのニットでフロントにはくるみボタンを使用。¥16,500_

ドラセナ吉祥寺本店
Tel.0422-26-9366
<http://www.e-dracaena.com>



襟付きでフロントにはコットンペロアがコンビネーションで配されたモヘアカーディガン。「75% VIRGIN MOHAIR 25% VIRGIN WOOL」とタグに表記される。¥66,000_

ドラセナノースダイヤ街店
Tel.0422-24-7572
<http://www.e-dracaena.com>



真っ赤なボディに首元から前立て、裾、袖、ポケット口までグレーのトリムが入られたデザイン。シルバーボタンが使用された'60年代らしいモヘアカーディガン。¥39,600_

ドラセナノースダイヤ街店
Tel.0422-24-7572
<http://www.e-dracaena.com>



上下で柄が切り替わる総柄。いずれも3色ほどの糸を使用し、異なる柄をデザインした風変わりな1枚。生地は、30%MOHAIR 60% WOOL 10%NYLON。¥32,780_

デザートスノー 千葉
Tel.043-225-9600 <https://desertsnow.shop>



サマーツイードジャケットを思わせるデザインのクルーネックカーディガン。1960年代のCAMPUSのもので、シルバーボタン、エルボーパッチが目目を惹く。¥27,500_

ミスターグリーン
Tel.090-2206-1755
<https://kurikurivintage.shop-pro.jp>



100%ORLON ACRYLICのモヘアクルーセーターはMcGREGORのもの。植物モチーフを思わせる総柄は、ハートマークのようにも映り、ハートフルな印象。¥8,800_

ドラセナ吉祥寺本店
Tel.0422-26-9366
<http://www.e-dracaena.com>

モヘア
(**MOHAIR**)

ここ数年で価格の高騰が目立つようになった
ヴィンテージモヘア。ヴィヴィッドなカラーやチェック柄、幾何学
模様などデザインも幅広く人気だ。



モヘアカーディガンとしては珍しいボーダー柄。色の組み合わせもあり見かけない。生地は「80% VIRGIN ORLON ACRYL 20% VIRGIN MOHAIR WOOL」。¥38,000_

コスミックジャンパー
Tel.042-726-0610 <https://cosmicjumper.shop>



モノトーンで統一された大きめアーガイル柄が上品で大人を印象づける。生地は75%モヘアを使用しているため、軽く肌触りも抜群。1960年代のMcGREGOR製。¥44,000_

ミスターグリーン
Tel.090-2206-1755 <https://kurikurivintage.shop-pro.jp>



1950～1960年代のモヘアニットはカーディガンが多いがVネックブルオーバータイプも少ないながら存在する。ニューヨークのテラーのネームが付けられる。¥26,400_

ドラセナノースダイヤ街店
Tel.0422-24-7572
<http://www.e-dracaena.com>



グラフィックにスイマーが入るタグの1960年代のJantzen。「75%wool 25% mohair」の生地で落ち着いた配色のチェック柄。左右裾にポケットが付けられている。¥33,000_

ドラセナノースダイヤ街店
Tel.0422-24-7572
<http://www.e-dracaena.com>



グリーンとブルーをベースに多色を使用したミックスカラーのチェック柄。1960年代のCAMPUS製でフロントには金属ボタンが使われたファッションナブルな1枚。¥52,800_

セカンドブーム
Tel.03-3462-1721
<https://www.2nd-boom.net>



SEARSに多く見られるというファスナータイプのモヘアカーディガン。襟から前立て部分のリップ使いが幅広く特徴的。ラムズウールに25%のモヘアが混紡される。¥54,780_

ディックロージング
Tel.03-5306-6887 <https://www.instagram.com/dclothingkoeji>



正方形がグラデーションで並べられ、ベストを着用しているかのようなモダンなデザインのモヘアカーディガン。生地は「75% FINE WOOL 25% MOHAIR」。¥38,500_

リカー
Tel.03-5305-5103
<https://www.ricur-style.com>



'60年代のPENDLETONのタグを付けた色鮮やかなブルーのカーディガン。「60% WOOL 40% MOHAIR」と表記され、いかにも上質な毛足の長いモヘアを使用。¥65,780_

ガソリン
Tel.03-6454-6310
<http://gasoline.jp>

ショールカラー

(SHAWL-COLLAR)

「へちま襟」の愛称でも親しまれるショールカラー。
ヴィンテージセーターを代表するアイテムのひとつで
カジュアルながらもエレガントな佇まいが人気だ。



エンジ単色のシンプルなショールカラーカーディガンは1940年代製。ざっくりローゲージで、左右裾に付けられたパッチポケットのポケット口が垂れる感じが良い。¥65,780_

ガソリン
Tel.03-6454-6310
<http://gasoline.jp>



ニューヨーク州ウエストポイントにあるUSMA(アメリカ陸軍士官学校)で1940年代に使用。スクールカラーであるブラックにグレーとイエローのラインが入る。¥178,000_

グリーフル原宿店
Tel.03-6427-6039 <https://www.gleeful.co.jp>



米アスレチックグッズブランドの代表格「LOWE & CAMPBELL」製。エンジ×イエローのツートーン、'30年代の個性ながらコンディション抜群の価値ある1着。¥88,000_

サントラップ
Tel.03-5378-3260 <http://www.suntrap-tokyo.com>



ショールカーディガンではたまに目にする「Standard」のネームが付く。ブラックとレッドの配色がクール。襟元にはボタンが装備され保温性も考慮されている。¥184,800_

ディークローゼン
Tel.03-5306-6887
<https://www.instagram.com/dclothingkoenji>



オールドのショールカラーカーディガンの中でも特別ローゲージとも言える編み込みで、さらに網目が詰まっており厚み、重みのある1着。襟のボリュームも特徴的。¥66,000_

ココロ
Tel.0422-27-6959
<https://kokorokichijoji.shop-pro.jp>



ショールやレタードニットをはじめ、スポーツウエアでは東海岸トップブランドの「O'Shea KNITTING MILLS」。シニールワッペン「S」中にCOACHの文字。¥43,780_

ピグスティ 原宿店
Tel.03-6438-9969
<https://www.pigsty1999.com>



パープルのフェルトで「L」の文字が配されたブルオーバー。あまり見かけないブランドだがネームデザインが良く、下にクリーブランドのデパートのネームが付く。¥43,780_

ピグスティ 原宿店
Tel.03-6438-9969
<https://www.pigsty1999.com>



オールドのショールカラーニットは全体的にボリュームがありワイルドなイメージだが、このニットはナチュラルカラーのシンプルなブルオーバースタイルで1930年代製。¥25,000_

コズミックジャンパー
Tel.042-726-0610 <https://cosmicjumper.shop>

レタード

(LETTERED)

所属する学校やクラブチームのイニシャルを模ったフェルトワッペンや刺繍によるカスタムがデザインとして目を惹くレタードニットはヴィンテージニットの定番だ。



ペンシルベニア大学を象徴するツートンカラーにフロントには「P」を模ったフェルトレターが付けられている。首元はレースアップで希少なセーラーカラー。¥159,000_

ナウ・オア・ネバー
Tel.03-3317-7707
<https://nowornever.ocnk.net>



1930年代のローゲージVネックブルオーバー。フロント「P」のシニールワッペンはブルーのフェルトベースにホワイトを縁取りすることで立体感を演出している。¥17,380_

ピグスティ 原宿店
Tel.03-6438-9969
<https://www.pigsty1999.com>



フロント胸部に大きな「W」の文字がフェルトで装着されたワシントン大学のセーター。1920年代の「Olympia Knitting Mills」製で、ローゲージ&タートルネックが新鮮。¥79,900_

ナウ・オア・ネバー
Tel.03-3317-7707 <https://nowornever.ocnk.net>



ローゲージで目の詰まった編み込みのポートネックセーターは1920～1930年代と断定。ハンドメイドのフェルト文字は「H」の中に入る「B」などデザインも秀逸。¥22,000_

ドラセナ吉祥寺本店
Tel.0422-26-9366
<http://www.e-dracaena.com>



イリノイ州のシュルツハイスクールのレタードセーターは1950年代のモノ。「S」の文字や背面の校名とマスコットブルドッグのシニールワッペンが贅沢に付く。¥48,000_

サントラップ
Tel.03-5378-3260
<http://www.suntrap-tokyo.com>



首元がUネックに近いデザインで裾リブもかなり長めの独特なスタイル。フロントに入る「1964」の数字は、その年度生で腕のラインは学年を示す。¥22,000_

リカー
Tel.03-5305-5103
<https://www.ricur-style.com>



レタードカーディガンやアワードジャケットに多く見られる「Whiting」。本を開いたデザインのシニールワッペンは珍しく文化系男子が着用していたのかも。8690円

スラット
Tel.03-5913-8470
<https://fortyone-s.com>



アワードジャケットで言うフルデコと呼ばれるシニールワッペンもりもりのレタードカーディガン。異種目のスポーツのワッペン、数字、文字が満遍なく付けられる。¥21,780_

デザートスノー 千葉
Tel.043-225-9600 <https://desertsnow.shop>

ジャカード

(JAQUARD)

時代の華やかさを感じさせてくれるジャカードニット。
発色の良いボディカラーに加え、動物や草木、雪の結晶など
さまざまなデザインで楽しませてくれる。



フロントに雪の結晶とトナカイの柄が並ぶ1950年代のVネックセーター。グリーンをベースに細かなホワイトの格子柄で構成され、どこか英国感を感じさせる。¥12,900_

ナウ・オア・ネバー
Tel.03-3317-7707
<https://nowornever.ocnk.net>



これまで多くのパターンのジャカードニートを輩出してきたJERSILD。スキーヤーが対面するグラフィックを中心にモチーフとなる絵柄の領域が広いのが特徴。¥22,900_

フォヴォス
Tel.03-3797-5822
<https://fovos.theshop.jp>



首のVが深い1940年代のJantzenのVネックセーター。セットインスリーブの袖にも柄が繋がっており、大きなスカーフを被っているかのようなデザインも良し。¥22,000_

ドロップ
Tel.03-3463-6086 <https://drop2006.thebase.in>



ブランドロゴにスイマーが入る1940年代のJantzen。ジャカードのパターンとしてありそうでないサンダーバード柄は長リブのクラシックなフォルムが印象的。¥19,900_

フォヴォス
Tel.03-3797-5822
<https://fovos.theshop.jp>



エンジとホワイトがベースで胸にはトナカイが2頭、両サイドの腕はツリーが大きく入れられる。'40年代の雰囲気を出しているが1970年代に復刻した1枚。¥8,580_

ピグスティ 原宿店
Tel.03-6438-9969
<https://www.pigsty1999.com>



中央のグレーの部分にホワイトのシカ柄が控えめに載せられたカーディガン。裾左右のポケット口のリブ使いが可愛いデザイン。1950年代のMcGREGOR製。¥8,690_

ガソリン
Tel.03-6454-6310
<http://gasoline.jp>



「100% VIRGIN WOOL」の表記タグが付けられた1960年代のフルジップカーディガン。SEARSが手掛けていたPILGRIMブランドで、驚きのデッドストック。¥18,000_

シーエー
Tel.03-3313-1710
<https://caatkouenji.jp>



アメリカ3大ストアブランドのひとつで知られるSEARSのボーイズライン、Boyvilleのタグ。1950年代のアメリカ製で柄部分が立体的に編まれた特別な1枚。¥21,780_

デザートスノー 千葉
Tel.043-225-9600 <https://desertsnow.shop>

カウチン

(COWCHAN)

ハンドニットによるざっくりとした編み目に
多様なグラフィックを載せたアート性が高いカウチン。
モチーフによってはコレクタブルアイテムとなっている。



人気柄のひとつオオカミ。舌を出した悪そうなオオカミが左右に入る。バックは尻尾まで描かれた全身のオオカミ2匹。フロントのボタン留めスタイルも良し。¥437,800_

ディークローージング
Tel.03-5306-6887
<https://www.instagram.com/dclothingkoenji>



赤のオープンカーが左右に対面するカウチンではメジャーな車柄。背面はドライバーが運転するナンバリング入りスポーツカーのグラフィックが載せられている。¥32,780_

フェイク アルファ
Tel.03-3404-0168
<https://webstore.berberjin.com>



カウチンセーターはヘチマ襟がお約束のデザインだが、フード一体型はとても希少。フロントには雁が2羽飛び立とうとしているグラフィックが表現されている。¥19,800_

フォヴォス
Tel.03-3797-5822
<https://fovos.theshop.jp>



1960年代頃のもので上下にボーダーのように入るグラフィックはどちらも波を連想させる。サーフ柄だとして、中央の赤のラインは何を意味するのかは不明。¥33,000_

リカー
Tel.03-5305-5103
<https://www.ricur-style.com>



ヨット柄の中でも絵柄が詰まった完成度高いほう。上下に入るローブラインに襟のボーダー柄。腕には舵も入れられる。ネイビーを基調としたホワイトとグレーの配色も良い。¥58,000_

サントラップ
Tel.03-5378-3260 <http://www.suntrap-tokyo.com>



モチーフ系でもノルディック系でもないジャンルレスなカウチン。グレーベースのボディにボーダーと格子を合わせたような柄を、さらに部分的に配した変り種。¥41,800_

セカンドブーム
Tel.03-3462-1721
<https://www.2nd-boom.net>



シンプルなノルディック系の柄も定番。Coats&Clark社のCCファスナーが付く1960年代のアメリカ製。サテンライニングも装着されているため着脱しやすい。¥30,580_

iti vintage clothing & humor
電話番号非掲載
https://www.instagram.com/iti_vintage_humor



カウチン柄としては定番のサンダーバードだが、今っぽいホワイト×ブラックの配色、そして前開きの無いプルオーバータイプはかなり希少なニットだと思われる。¥43,780_

デザートスノー 千葉
Tel.043-225-9600 <https://desertsnow.shop>

JOE McCOY



JELADO



モヘア
カーディガンは
絶大な人気を誇る。

CLUTCH CAFEを代表するニットのひとつがモヘアカーディガンです。オープンした年の秋冬から積極的にバイイングしているアイテムでもあります。ロンドンでもカート・コバーンの影響が強いのでしょうか。当店で扱うモヘアカーディガンは日本の2ブランドから。JOE McCOYとJELADOは毎年、色やデザインを変えて新作をリリースしています。入荷するとすぐに反響がある安心のアイテムです

England's wool industry has long influenced fashion, with wool coats, jackets, and knitwear being winter essentials. At CLUTCH CAFE, a London select store, we explored the current knitwear landscape to understand its enduring popularity and style.

真冬のロンドンでは ニットが街に溢れている。

From
CLUTCH CAFE
in LONDON

イギリスは昔から毛織産業大国。だから、ロンドンではウールが街に溢れている。ウールのコートやジャケットはもちろん、トラウザーズだって大人気。そして、冬になればニット。ロンドンのセレクトショップ、CLUTCH CAFEもカジュアルウエアの店だが、ニットが充実する。店のスタッフに本場のニット事情を訊いてみた。

CLUTCH CAFE <https://clutch-cafe.com>

HEIMAT x CLUTCH CAFE



「色で遊ぶ」が
ロンドン
スタイル。

ロンドンの男性は白いニットが好きですね。イギリスでは軍隊でも白いタートルニットを冬の装備品としてきた歴史があります。今シーズンの目玉は白にピンクのボーダーが入ったクルーネックセーターです。これはCLUTCH CAFEがニットブランドのHeimatに別注したものです。こんなに可愛いカラーリングですが、XXLまで揃えてあります。イギリスの男性は、日本では女性的と思われるようなカラーも着こなします

襟付き
カーディガンを
色落ちデニムに!

襟付きのカーディガンも多数揃えています。冬の終わりにはほとんど在庫がなくなってしまいます。ロンドンでは気候的に、長い期間ニットが売れます。特に、こうしたカーディガンは春先まで活躍してくれます。新作はPherrow'sのウールニット。毎年、いろんな柄が出るので、楽しみにしている方も。ALLEVOL × INVERALLANのインディゴニットはコットン製で3シーズン対応。一年中店頭に並ぶ大定番です



ALLEVOL × INVERALLAN



Pherrow's

赤やピンクは
真冬の
人気カラー。

Chamulaは色、柄、形とデザインが豊富で、CLUTCH CAFEでも様々な種類を揃えています。秋の到来とともに動き始め、クリスマスにはほとんど売り切れてしまいます。特に人気ののが赤やピンクといった暖色系でしょう。店頭でもこうした色はショーウィンドーを飾ることが多いんです。目立ちますから。Chamulaは帽子やマフラーも充実しているので、同じ色柄のセーターと合わせて購入する人がたくさんいます。驚くほど肌触りの良い100%メリノウールはクセになります

CHAMULA



ALLEVOL x INVERALLAN



CHAMULA

コットンニットなら
インディゴの
エイジングも楽しめる。

襟付きカーディガンでも紹介したALLEVOL × INVERALLANのインディゴコットンニット。じつはインディゴはウールだと染まりにくいので、インディゴニットはコットン製にしなくてはなりません。スコットランドで作っているコットンニットなのです。色の薄い方は数年間着用したエイジングサンプルです。ジーンズのように色落ちを楽しめるニット、店頭でもこのエイジングサンプルを見て決心するお客様が多いようです

pure blue japan

OLIVE DENIM

pure blue japan has unveiled a distinctive new denim piece featuring olive-colored warp yarn.

Breaking from their traditional indigo blue, this innovative design offers a fresh, compelling alternative.

The olive denim promises to expand your styling options, bringing a unique character and individuality to your wardrobe that goes beyond classic blue jeans.

日本伝統の藍染を駆使したモノ作りで世界中から注目を浴びるpure blue japanから、注目すべき新作が届いた。

オリーブ色の経糸を使ったデニムは、従来のpure blue japanにはない個性と色気を醸し出している。

インディゴのブルージーンズも悪くはないが、

時にはこうしたオリーブカラーのデニムで下半身を彩るのも悪くない。

コーディネート幅も、必ず広がることを約束する。

Photo by Shunichiro Kai 甲斐俊一郎

Text by CLUTCH Magazine 編集部

pure blue japan HARAJUKU Tel.03-3408-6644

<https://www.purebluejapan.jp>

下半身にも個性を。



New



14oz Olive Selvedge Denim

pure blue japanから、オリーブカラーの経糸を持つ14ozのデニムが登場した。オリーブの実を彷彿させるような、トーンの落ち着いた優しいグリーンが特徴的だ。オリーブは硫化染料のローブ染色のため、着用するうちに、独特の経年変化も楽しめる。オリーブ色の経糸以外は、pure blue japanのXX14ozデニムと同様なので、14ozで穿き心地は極上だが、ザラ感のある生地で、重厚感をしっかり感じられるのも嬉しいポイントだ。用意したシルエットは、レギュラーストレート・スリムストレート・スリムテーパード・リラックステーパードの4種類。スタイルに合わせてチョイスしたい。¥33,000_ (サイズ38、40は¥36,300_)



OL-14oz-003

Regular Straight



OL-14oz-005

Slim Straight



OL-14oz-013

Slim Tapered



OL-14oz-019

Relax Tapered

Thank you from the bottom of my heart.

GLAD HAND & Co.



Photo by: Yu Hashimoto

U.S.A. COTTON
MORE THAN EXPECTED...



Chris Day





Superior Boots Collection


BLACK SIGN
MADE IN JAPAN

Reproducing vintage pieces with modern precision demands extraordinary craftsmanship
—often more challenging than designing something entirely new. Among global vintage enthusiasts,
Japanese brands are renowned for their meticulous attention to detail.
BLACK SIGN's boots embody this commitment: each pair is a faithful testament to historical design, revealing its quality with every wear.

ヴィンテージピースを元に、現代の技術で忠実に再現することは、ゼロからまったく新しいものを
生み出すよりも高いスキルが必要だとされる。そして、こうした再現力の高さは、日本のブランドが
抜きん出ていると、世界中の多くのヴィンテージ愛好家が認めるところ。

BLACK SIGNのブーツもまさにパーフェクトな逸品。履くたびにそれを実感できる。

Photo by Masahiro Nagata 永田雅裕 Text by CLUTCH Magazine 編集部
BLACK SIGN Tel.052-734-6914 <https://blacksign.jp/>





こちらが本作の元となった1930年代のヴィンテージのアヴィエーターブーツで、エンジニアブーツの原型になった。繊細な縫製で独特なシルエットを持つ。このオリジナルから新たに木型を起こすところから忠実に再現

新品から数カ月履き込んだサンプル。1930年代のアヴィエータースタイルをモチーフに、忠実に再現したブーツは、爪先が潰れて、まるで当時のオリジナルのような風合いになっている。銀面が艶やかで厚みを抑えた2.3〜2.5mm厚のヌメ革ホースパットならではの美しい経年変化が愉しめる。グッドイヤーウェルト製法なので、足馴染みにも優れている

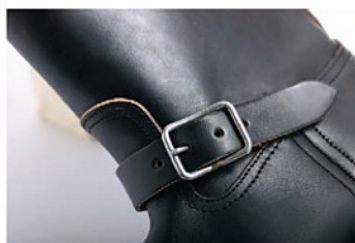
BS Aviator Boots Long Height (14 1/2 inch.)

BSSF-17001
Separate Rubber Sole
¥93,000_+tax
Single Leather Sole
¥88,000_+tax
Size/6-11D



BS Aviator Boots Regular Height (11 inch.)

BSSF-24001
Separate Rubber Sole
¥93,000_+tax
Single Leather Sole
¥88,000_+tax
Size/6-11D



ストラップ部分も1930年代ならではのデザイン。1950年代のエンジニアブーツでは平らな板のようなプレスバックルが一般的になるが、こちらは棒状の鉄を曲げた、より旧式のバックルを採用した

ヒールカウンター部分の仕様がこのブーツの最大の特徴。現代ではほとんど見ることのない作りを再現している。1930年代までのブーツでしか見られない、より手間の掛かる縫製となっている



アヴィエーターブーツには丈の異なる2種類をリリースしている。どちらもアウトソールが2種類。レザーソールにはベジタブルタンニングのオークバークを使い、履き心地の良さを約束する。ハーフラバーソールでは、これがミッドソールとなる

8本の釘を打ち込むグリップ力と耐摩耗性に優れたオサリヴァンのラバーヒールを使用

Superior Boots Collection



戦前のアメリカ靴をイメージして、日本のファクトリーで製作したグッドイヤー製法のキャップトゥブーツ。ラストは米陸軍が採用した木型をモチーフにオリジナルで製作。アッパーは1.8~2mmとドレスシューズにしては厚みのあるボックスカーフだ。左は元にしたヴィンテージで、右は新品を履き込んだもの

Army Last Mid Cut Dress

BSFF-15001
Separate Rubber Sole
¥93,000_+tax
Single Leather Sole
¥88,000_+tax
Size/6-11D

ソールはレザーソールとハーフラバーソールの2種類を用意。いずれもオサリヴァンのラバーヒールを装着する。より、クラシカルなスタイルにこだわるならレザーソール、グリップ力の高い機能性を優先するならハーフラバーと、スタイルに合わせて選びたい



ブローグが打たれたトゥキャップはヴィンテージのデザインをそのまま再現している。実際に1942までは米陸軍のサービスシューズで採用されていた仕様である



片側上部4つがフック式になっている。レースは蠟引きコトンの平紐を使用し、よりクラシックな雰囲気を醸している。レースエンドの金属セルもアクセントになっている

シューレースはヴィンテージ感があり、解けにくい蟬引きのコットン平紐を採用。シューレースエンドには金属セルを付けている



アウトソールには厚さ5mmの重厚なArmyソールを復刻して使用。レザーソールと繋ぎ合わせて一枚に見えるよう工夫を凝らしている

Navy Last Dress Oxford Shoes

BSSF-17002
¥68,000_+tax
Size/6-11D

米海軍のサービスシューズ（官給品のユニフォーム）を元に製作したプレントウ・オックスフォード。こちらも日本でトップクラスのシューファクトリーで作られる。米海軍で採用されていた木型を再現。アッパーは軽量で足馴染みの良いボックスカーフを使用している。アメリカ靴らしいステッチワークや仕上げにこだわっている。グッドイヤーウェルト製法



ソールはセバレットラバー仕様。グリップ力と重厚感の優れたU.S Army刻印入りのハーフソール。ヒールにはオサリヴァンのラヴァーヒールを仕様。単なるドレスシューズとは一線を画す、タフでラギッドな佇まいになっている



19UJ_MIRITALIA, a rising vintage store from London, is teaming up with the internationally acclaimed boot brand CLINCH for an exciting collaboration launching next spring. The collection reimagines WWII-era CC41 boots, meticulously hand-crafted and reconstructed with stunning detail.

UJ_MILITARIA



国や時代を超えたコンテンポラリーなブーツ。

ロンドンに拠点を置く新星ヴィンテージショップである19UJ_MIRITALIAと海外からも多大な評価を得るブーツブランドであるCLINCHのコラボレーションが、来春に発売。第二次世界大戦時のCC41のブーツをベースに、美しい手仕事で再構築した。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Text by Shuhei Sato 佐藤周平
BRASS SHOE CO info@brass-tokyo.co.jp https://www.brass-tokyo.co.jp

英国の若き才能と日本のクラフトマンシップの邂逅。

19世紀初頭から50年代頃までの英国を中心としたヴィンテージが揃うロンドンの19UJ_MIRITALIA。オーナーのサイモンは、ヴィンテージに精通する一方でプロ顔負けのスケーターでもあり、ジャンルに縛られない自由な視点で、独自のセレクトを展開する。サイモンが生まれ育った英国では多くの名門紳士靴メーカーがあるが、なぜ遠く離れた極東にあるCLINCHを頼ったのだろうか？

「今回のコラボレーションでは、第二次世界大戦時に英国では物資統制令が敷かれ、様々な制約の中で作ったことを意味するCC41のブーツをベースにしました。おっしゃる様に英国にも優れたシューメーカーはたくさんありますが、僕はCC41を忠実に再現したいわけではなく、あくまでもコンテンポラリーな表現にしたい。そうなるヴィンテージを深く理解した上で、実際にブーツを作れる松浦さんしかいないと思ったんです。普通の職人さんではその感覚を共有するのは困難。今回の来日で初めて最終の仕上がりを見ましたが、理想以上のものでした。日本の手仕事の美しさと松浦さんのセンスが必要不可欠であったと確信できましたね」

CLINCH × 19



BRASS SHOE CO Owner
松浦 稔

2007年にシューリベア
& カスタムショップをオ
ープン。その後、2012
年よりオリジナルブラン
ドである CLINCH をス
タート。世界的な人気に

19UJ MILITARIA Owner
サイモン

1900年代初頭から50
年代までの英国ヴィンテ
ージを中心にセレクト。
スケーターでもあり、そ
の自由なマインドから、
独自のセレクトを展開



美しさと堅牢性を兼ね備えた型
押しのかーフを採用。ドレッシ
ーなラストのため、あえてパタ
ーンを野暮ったくすることで、
全体のバランスをカジュアルに



Cultivate Chukka



“過去の価値を育み、現代に洗練されたデザイン”を意味するモデル名を関したコレボ
レーションモデル。アッパーには型押しのかーフ。ラストはもっともシャープなHRを採用。
黒は19UJ_MILITARIA、茶はCLUTCH CAFE LONDONにて販売。¥203,500_



ROLLING DUB TRIO

The ROAD to NEW BOOTS.

Vol.
2

ROLLING DUB TRIO has won the hearts of boot enthusiasts in Japan and worldwide. In our previous issue, we introduced the brand, and now we dive deeper. From crafting samples to refining wooden patterns and selecting materials, their meticulous process reflects their dedication to quality. Let's explore how they create boots that captivate fans globally.

このブーツに最適な素材は何か？

日本、いや世界のブーツファンの心を驚かしているブランド、ROLLING DUB TRIO。彼らはどのようにしてブーツ作りを行なっているのか。前号でその一端を紹介したが、今回はその2回目。サンプルを作り、木型を変え、素材を選ぶ。そのプロセスの中から、ROLLING DUB TRIOのモノ作りの哲学が見えてくる。どのようにして、世界中のブーツファンを虜にするブーツが誕生するのか、見ていこう。

Photo by Shunichiro Kai 甲斐俊一郎 Text by CLUTCH Magazine 編集部
問い合わせ / THE BOOTS SHOP <https://thebootshoponline.com/>



ニッピフジタには、国内外の最高品質のコードバンが集められている。井上さんと相談しながらその素材を決めていく。右の写真が徳永さんが作った「グリフィン・ラインマン」。写真のサンプルはホースパットを使用しているが、コードバンに変更する予定だ。今後、ラストも変更する予定。どんなブーツに仕上がるのか、今から楽しみだ



今回、徳永さんが参考にしたのはバーボン。このうすうすと樽の色のついた渋い質感を、コードバンで表現することに



ニッピフジタでは、革の仕上げも行。まずオイルを入れ、染色をし、ワックスを入れる。染色の具合を見ながら、何度も染料を吹き付けていく。非常に繊細な作業なのだ



コードバンを吟味する徳永さんと井上さん。素材として選んだのはイタリア製のコードバン。ガラスなどで磨いて艶を出す「グレージング」の工程をあえて省いて、履き手が艶を出していくコードバンを作り上げることに



ニッピフジタの菊池さん。若い女性ながら、革の知識や仕上げの技術などに精通している。今回のROLLING DUB TRIOのブーツ作りにも参加してくれた

右ページに立つ二人の男。ROLLING DUB TRIO代表の徳永勝也さん(右)と、ニッピフジタの井上保弘さん(左)だ。前号のクラッチマガジンでも紹介したが、ROLLING DUB TRIOがどのようにブーツ作りを行なっているのかを紹介するこの企画、今回はブーツの素材選びに着目する。今年5月に作った「グリフィン・ラインマン」をブラッシュアップすべく、徳永さんが選んだ素材はコードバン。最高の素材を求めて辿り着いたのが、老舗の革卸問屋であるニッピフジタなのだ。ニッピフジタの井上さんは、世界中の革を見てきた、まさに日本有数の「革の有識者」。徳永さんが求めるコードバンを二人三脚で作りに上げていく。徳永さんが求めたのは、「ウィスキーのように、熟成していくコードバン」。井上さんが染色をし、あえてグレージングを施さずに、最初はマットな質感だが、履き込むほどに艶感が増し、色が深くなっていくコードバンを作り上げた。この革がブーツになってどのような風合いをもたらすのか、今から楽しみだ。



Just For You WHITE'S BOOTS

WHITE'S BOOTS, one of the best work boot brands in the U.S., is known as the "King of Boots" for its meticulous handmade production since its establishment. Still beloved by many boot enthusiasts, these boots are made to last a lifetime. If you're looking for a pair that can be cherished for the long haul, why not consider a custom order from WHITE'S BOOTS? It's a great way to create a truly special, one-of-a-kind pair.

「King of Boots」と称えられるアメリカ屈指のワークブーツブランド、WHITE'S BOOTS。創業から一貫してハンドメイドによる丁寧な作りを誇りとし、現在も多くのブーツファンに親しまれている。いわゆる一生物として長く愛用できるブーツを履くのであれば、特別な1足を履きたいものだ。そこで自分だけのWHITE'S BOOTSをカスタムオーダーメイドで楽しんでみてはいかがだろう。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦
Text by Tamaki Itakura 板倉環



カスタムオーダーはブーツの真骨頂。



アッパーに使用するレザーを選べるのももちろんライニングも数種用意。単色だけでなく2トーンでコンビネーションもデザインできるため、パーツごとに変えるのも面白い

定番のビブラム700番からコマンドソール、レザーソールなどアウトソールの種類も豊富に揃う。カスタムベースとなるモデルのフォルムに合わせた自分好きなソールを選ぼう

標準装備されるシューホールやバックルなどの金属パーツはブーツのフォルムや雰囲気大きく変える重要なパーツ。アッパーの色やブーツのスタイルで相性を確かめるのもあり



Packer

ヴァンプとカウンター、バックステーターにシャーク。クウォーターとガゼットにナチュラルクロームエクセルを採用したコンビネーションカラー。ソールはビブラム700番を装備。¥149,000_~



Smoke Jumper

ヴァンプとカウンターにクロームエクセル。クウォーターとバックステーターがレッドドッグラフアウトで同系色ながら素材感の面白さを演出。ソールはビブラム700番装着した2017年製。¥144,000_~

歴史と伝統でWHITE'S



池岡氏が本社ファクトリーで修行していたころ、毎日のように履いていたスモークジャンパー。ソールには床に落ちていた釘が挟まっている

STUMPTOWN SHIBUYA
TEL03-3477-0658

2014年から2021年まで本社工場にてブーツ作りを学んだ池岡大志氏。現在はリクラフターとしてブーツのリペア、メンテナンスに関わっている。「現地でブーツ作りを7年学び、ひと通り作れるようになりましたが、工場ではひとつのセクションで何十年と手を動かしてきた職人ばかり。わたしとは熟練度が違います。アメリカならではの緩さはもちろんありますが、品質に関して妥協のない厳しさは、長い

「現地でブーツ作りを7年学び、ひと通り作れるようになりましたが、工場ではひとつのセクションで何十年と手を動かしてきた職人ばかり。わたしとは熟練度が違います。アメリカならではの緩さはもちろんありますが、品質に関して妥協のない厳しさは、長い歴史と伝統でWHITE'S

カスタムオーダーで珠玉の一足を作る愉しみ。

ES BOOTSブランドを守ってきた証なんだろうなと現場を見て感じたことです」



現地のファクトリーで修行をした経験を持つ池岡氏。WHITE'S BOOTSネームで一から手掛けたことのある数少ない日本の職人

Orgueil's latest collection elegantly bridges heritage and contemporary fashion. Honoring European textile traditions, their three-piece casual ensembles represent a sophisticated fusion of timeless craftsmanship and modern style.

旧きよき時代の 職人氣質。

Orgueilの今シーズンの新作は
ヨーロッパの伝統を現代に継承する
ファブリックにこだわったアイテム。
スタイリッシュな3ピースは
トラディショナルなカジュアルスタイル。
まさにOrgueilの真骨頂といえる。

Photo by Masahiro Nagata 永田雅裕 Text by CLUTCH Magazine 編集部
ORGUEIL Tel.06-6536-6310 <https://www.orgueil.jp>

- Classic Wool Jacket
OR-4301
¥73,700_
- Classic Wool Gilet
OR-4302
¥49,500_
- Classic Wool Trousers
OR-1115
¥51,700_

かつて、ヨーロッパの紳士がハンティングなどの時に着用していたようなクラシックスタイルの3ピース。ジャケットのプリーツ付きパッチポケットやラベル一体型のチンストラップがそれを物語っている。100%ウールの上質かつ、カジュアルなドレススタイル



- Moleskin Sack Jacket
OR-4298
¥58,300_
- Moleskin Gilet
OR-4299
¥45,100_
- Moleskin Trousers
OR-1113
¥41,800_

ヴィンテージのフレンチワークスタイルでは定番的な素材である厚手のモールスキンを使用した3ピース。いにしへのワークウェアを再現している。こちらもジャケット、ジレ、トラウザーズとそれぞれの個性が際立っており、単品で他の服に合わせても存在感を放つ。カラーはブラックのみ



スリーボタンで狭めのVゾーンと幅の狭いラベルが特徴。モールスキンの生地は極厚で、防寒性も高めてくれる



各アイテムのメインポケットは、手作業でしか表現不能な曲線的なスマイリーポケット仕様。職人技が光る



サイドのアジャスターに付くバックルはアールデコ調のデザインが施される。クラシックな佇まいを演出



- Classic Wool Jacket
OR-4301
¥73,700_
- Classic Wool Gilet
OR-4302
¥49,500_
- Classic Wool Trousers
OR-1115
¥51,700_

右ページにあるカーキの3ピースと同型色違いで、こちらはブラック。3つ揃えて着るのもいいが、ジャケット、ジレ、トラウザーズ、それぞれを他のアイテムと組み合わせればコーディネートは無限に広がる。単独でも使いやすいデザインが特徴だ。上質なウールの着心地を楽しんでもらいたい



素材だけでなく、複雑なカッティングや縫製仕様もこの3ピースのこだわりどころ。まるで誂え服のような佇まい



ジャケットのみならず、トラウザーズのフロントにあるスラッシュポケットまでボタン留め仕様に



バックポケットもボタン留め。股上りが深めでゆったりとし、動きやすいオーセンティックシルエット

MILITARY OUTER



in Winter



【MJ24105】

N-1 DECK JACKET (KHAKI) / SPECIAL EDITION

SIZE:36,38,40,42,44,46 COLOR:KHAKI PRICE:¥154,000_

第二次世界大戦時に米国海軍へ支給された名作N-1デッキジャケット。甲板の上で作業する兵士の防寒を目的としたN-1システムのユーティリティジャケットで、何度も修正を重ねて、カーキのコードクロス、防風と腐食を防ぐためのジッパー上のフラップ、アルパカウールライニングという仕様で、大戦末期に完成した。ただこの個体には、襟にビーバーラムのムートンを配しており、より防寒性を高めた特別仕様となっている



The REAL McCoy'S elevates military-inspired fashion by meticulously recreating vintage military garments with exceptional craftsmanship. Using premium materials, their outerwear captures the authentic essence of historical military style, offering a timeless and refined option for winter wardrobes.

冬の最終兵器、それがミリタリー。

当時の最高品質の素材を使って作られるミリタリーガーメンツは、今の時代でも十分に通用する。
The REAL McCoy'Sの産み出すプロダクツは、当時の空気感をも再現した精緻なモノ作りで、他の追随を許さない。
この冬は、The REAL McCoy'Sのミリタリーアウターで、街に繰り出そうではないか。

Text by Shuhei Sato 佐藤周平 Photo by Shunichiro Kai 甲斐俊一郎
問い合わせ/ザ・リアルマッコイズ東京 TEL03-6427-4300 京都 TEL075-708-5456
大阪 TEL06-4391-8430 神戸 TEL078-331-0620 福岡 TEL092-738-7977
<https://therealmccoys.jp> <https://therealmccoys.com>



[MJ22108]

JACKET, COMBAT, WINTER REAL McCoyMFG.CO.

SIZE:XS, S, M, L, XL COLOR:KHAKI PRICE:¥77,000_

タンカースジャケットの愛称で知られる当アウターは、第二次世界大戦中に、ヨーロッパ戦線へ派兵された米国陸軍の兵士へ支給された冬季用の野戦服。厚手のコットンツイルのアウターシェルにウールメルトンという組み合わせで、耐久性と保温性を確保。ミニマルなデザインながらも、リブのスタンドカラーやアクションプリーツ、コンパクトな着丈など、随所に機能美が詰まっている。その利便性から、部隊や階級を超えて愛用された





SOUVENIR SUKA JACKET / TIGER AND EAGLE

SIZE:S, M, L, XL, XXL COLOR:BLACK PRICE:¥330,000_

戦勝国であるアメリカは、日本を統治するために多くの兵士を派遣した。オクシデンタルな文化で生まれ育った彼らにとって、初めて触れるオリエンタル文化は斬新であった。そんな経験を家族と分かち合う土産物として人気であったのが、横須賀発祥のスーベニアジャケット。遠州地区でしか生産できない貴八別珍とレーヨンサテンのリバーシブルとなった当ジャケットは、高い技術が求められる横振りミシンを用いた刺繍で仕上げている





SUKA JACKET for JUNIORS / TIGER AND EAGLE

SIZE:F COLOR:BLACK PRICE:¥154,000_

戦後に多くの米国兵が駐留する横須賀で生まれた“スカジャン”は、東洋文化を身につけられる土産物として、アメリカ本土で人気を博した。母国で父親の帰りを待ちわびる子どもたちへ買っていくことも多く、ヴィンテージ市場でもキッズサイズが多くある。このジュニアモデルは、サイズこそ小さいが、そのスペックは大人向けと遜色なし。貴八別珍とレーヨンサテンのリバーシブル仕様で、度の詰まったコットンウールのリブを配している

PREQUEL emerges as a truly unique fashion brand in fall 2024. Drawing inspiration from an authentic French fabric sample book from a century ago, they meticulously recreate historical textiles through Japanese craftsmanship. Each piece is more than clothing—it's a portal to the past, weaving together historical authenticity and contemporary design in a way no other brand has achieved. PREQUEL isn't just making clothes; they're crafting a time-traveling experience.

100年の時を超えていま蘇る。

2024年秋、新たなブランドが誕生した。その名は「PREQUEL(プリケル)」。
商品開発の根底を支えるのは100年前のフランスで実際に使われていた生地の見本帳である。
そこに貼られているサンプル生地を日本の職人たちによって、忠実に再現するところからすべてが始まる。
再現された生地は、当時の香り漂うアイテムへと縫製されていく。類を見ないコンセプトを持ったPREQUELは
現代と100年前を繋ぐタイムマシンのようなブランド。
世界を見渡してもライバルはいない。

Photo by Masahiro Nagata 永田雅裕 Text by CLUTCH Magazine 編集部
PREQUEL Tel.072-900-2806 <https://prequel.jp/>



新ブランド PREQUEL 誕生!

PREQUELとは、「物語の前話」を意味する映画用語で、日本語では「前日譚」と訳される。過去の時代に息づいていた服のテイテールを現代のファッションに蘇らせ、更なるストーリーを展開する。目を付けたのはフアブリック。歴史の中に埋もれていた部分を紐解き、新たな物語を紡ぎ出すことで、時代を超えた新たなプロダクションへと発展させる。こうして、魅力あふれる製品が完成するのだ。原点となっているのはおよそ100年前のフランスの生地見本帳。膨大なサンプルがある

中で厳選した生地を徹底的に分析し、熟練の職人技と最先端の技術を融合させて、新たな価値を宿した生地を蘇らせる。ヴィンテージデザインを忠実に再現するだけでなく、ヴィンテージらしい雰囲気や風合い、手触りにまでこだわった、「新しい生地」は、存在感と個性に満ち溢れた特別な素材となる。途方もないプロセスを経て完成した生地は、PREQUELの製品として縫製されるだけでなく、生地ブランドとして海外のマーケットにも展開されていく。生地にも自信があるからこそその新しい展開

と言えるだろう。ヨーロッパにあって、日本にはないもの。それは洋服の歴史。日本にあってヨーロッパにないもの。それは区別がつかないほどの再現性を持った技術力。この両者を繋ぎ、新たな物語を綴ることがPREQUELの目指した高尚な役割なのである。まさに、国境を越え、時代を超えた先に誕生したのが、このブランドの生地であり、プロダクツである。PREQUELを着ると言うことは、文化の継承者になると言っても過言ではない。



PREQUELが綴る第一章として誕生したスタンドカラーシャツ。新品でありながら、古いヨーロッパのデイリーウェアを見ているような錯覚に陥る。単なるデザインだけでは、こうはならないことを理解いただけるだろう。¥27,280_



PREQUELが所蔵する100年前のフランスの生地サンプルが一冊にまとめられた見本帳。そこにはデザインが描かれているのではなく、生地の実物が無数に貼られている。眺めているだけでも当時の世の中を空想できる夢のようなシロモノ



長い歴史へのオマージュ

PREQUELが掲げるモットーが、「HOMAGE TO 100 YEARS OLD」。つまり100年という歴史へのオマージュだ。これこそヘリテージスタイルと言えよう

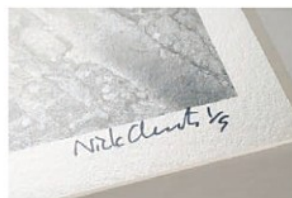
Nick Clements Art Frames

▼ Simon, Jamie and Holly,
Kensington Mews.



Nick Clements, the editor-in-chief of *Men's File* and a photographer with a global presence, has selected five of his Black & White works from his impressive portfolio for limited edition sales. These prints are high-quality reproductions, with only 5 copies available, each signed and numbered by the artist. The prints are made on Photolag Metallic, a fine art paper produced by Hahnemühle in Germany, known for its special luster.

本誌のパートナーである『men's file』の編集長であり、世界を舞台に活躍する写真家ニック・クレメンツ。彼がこれまでにmen's fileの誌上に掲載した秀作の中で、彼自身がBlack & Whiteの5作品を選び、高精彩プリントをして限定販売中。全て5枚限定、自筆サインとシリアルが入る。なお、プリント紙には、ドイツ・Hahnemühle社のファインアート紙の中でも、特別な輝きを持つフォトラグ メタリックを採用している。



全作品に写真家ニック・クレメンツの自筆サインが入る。プリントの仕上がりを確認しながら、サインを行った

写真の力を削がない木製のブラックフレームを採用。マット付きの高品質仕上げ。ウッドフレームの外寸はいずれも42 × 53cm

▼ En vacances, French Alps.



▲ Seb at speed, Lyon.

STORE INFO

日本国内への発送 <https://www.club-lightning.com/>

Outside of Japan <https://www.wclub-lightning.com/>



▲ Jamie and Casey, Waterloo,
London.



▲ Jamie, Kings Cross, London.

1950s Universal Geneve Tri-Compax "Spillino" Ref.22297-3

My Sweet Watch

For true watch fans, nothing gets you excited as when you encounter rare vintage watches. While some models can suddenly increase in price, recently the values of watches are primarily based on speculation. Here, we will be introducing some of our most desired models and other models that are receiving the most amount of buzz in various markets.

復活を果たした
スイスの名門に
注目が集まっている。

今回ピックアップしたのは、昨年にBREITLINGが買い取り、復活を果たすことになった1894年創業のスイスの古豪であるUniversal Geneve。当社を代表する名作であり、天才ジェラルド・ジェンタが手掛けた初期作である、1954年発売のボールルーターの70周年から復活の狼煙を上げた。そのニュースからアンティーク市場も活性化しており、ボールルーターの他に、名作として名高く、人気の高いコンパックスやトリコンパックスが注目されている。特に防水ケースを用いた最初期のトリコンパックスは、数も少なく、この年代のみの意匠が随所に落とし込まれているため、高騰が予想されているのだ。

**Universal Geneve
Tri-Compax Ref.22297-3**
¥1,980,000_

1950年代中期よりトリコンパックスは、防水ケースを採用。後にブランドアイコンとなるツイストラグケースではなく、ストレート仕様となっているのが特徴。またクロノグラフ機構を操作する際のプッシャーボタンが小さく、"Spillino"のニックネームで知られる。生産年数が極めて短く、独自の意匠から人気が高い



欲しいモデルを挙げたらキリがないヴィンテージウォッチ。モデルによつてはその市場価格が急上昇する場合もあり、最近では世界的に投機の対象にもなっている。そんなヴィンテージウォッチの中から、我々がいま欲しいと思うモデルや市場で注目されているモデルをここで紹介する。

Photo by Nanako Hidaka 田嶋奈々子 Text by Shunpei Sato 佐藤周平



PRIVATE EYES

6-28-7 Takinogawa Kita-ku
Tokyo, Japan
東京都北区滝野川6-28-7
Tel.03-3940-0707
11AM-7PM(月曜休)
<https://www.watchnet.co.jp/>

CORNERS

Turquoise, known as the stone of Mother Earth and Father Sky,
has been sacred to Native Americans since ancient times.
Its blue hue comes in a rich variety of tones.
At CORNERS, we will showcase and sell masterpieces
that capture the profound beauty of turquoise.

青と碧の世界。

母なる大地、父なる空の石として、ネイティブアメリカンにとって太古より
神聖な存在であるターコイズ。一言にターコイズブルーと言っても、その色のトーンは多種多様。
CORNERSでは、その奥行を表現したマスターピースを展示販売する。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Text by Shuhei Sato 佐藤周平
CORNERS info@corners-tokyo.jp Instagram@corners_official



BLUE TURQUOISE

美しいブルーの石を用いたズニ族のヴィンテージジュエリー。チャンネルインレイという代表的な技法や石枠の細工など、限られた資源やモノを大事にする姿勢がジュエリーにも反映され、手で削り出された細かなターコイズを散りばめたクラスタージュエリーは手仕事の美を感じる。ネックレス¥198,000_、バングル¥297,000_、ピンズ、ピアス、リング各¥59,400_、イヤリング¥46,200_



GREEN TURQUOISE

ターコイズは、大地を彷彿とさせるような碧もある。鉱山で言えば、キャリコレイクやロイストンあたりが代表格。存在感のあるグリーンターコイズにも負けないナバホ族特有の力強いスタンプワークが相乗効果を生んでいる。上段右から¥105,600、¥145,200、¥171,600、¥99,000、下段右上から¥89,100、¥59,400、¥59,400、左上から¥82,500、¥72,600、¥59,400



ナチュラルターコイズに特化したヴィンテージをセレクト。

ネイティブアメリカンにとって神聖な存在あるターコイズは、一説による6世紀頃には簡単な道具で採掘されていた。彼らがリザベリオンを構えるアリゾナ州、ネバダ州、ニューメキシコ州、コロラド州に鉱山が集中しており、その希少性やグレードでブライスは上下する。ネイティブアメリカンのカルチャーを日本に伝えるCORNERSでは、

古来より大切にされているターコイズを用いたヴィンテージジュエリーの良さを広げるために、今回のエキシビションを開催。世の中に出回っているターコイズの90%以上は加工されたものと言われており、今回はナチュラルターコイズのみを厳選。ヴィンテージジュエリーでは石が取れてしまうケースもあるが、完璧なメンテを施している。

12月19日～1月19日@六本木蔦屋書店エキシビション『青と碧の世界』を開催！

CORNERSがナチュラルターコイズをテーマにしたエキシビション『青と碧の世界』を上記の日程で開催する。今回ピックアップしているヴィンテージのネイティブアメリカンジュエリーを中心に販売、展示する。会期中は一部の日程でCORNERSのスタッフが在廊し、販売だけでなく、その歴史の説明から修理などの相談も受け付ける。info@corners-tokyo.jp

六本木蔦屋書店 東京都港区六本木 6-11-1 六本木ヒルズ 六本木けやき坂通り 03-5775-1515

Vintage Brandnew

vol. 98.

ヴィンテージピースを徹底的に検証しリプロダクションを生み出す手間はデザイナーの感性に頼るモノづくりの何倍も知識と労力が必要となる。

この歴史への挑戦から素晴らしいプロダクツが誕生している。

「再現させたい」とクリエイターたちを鼓舞する
ヴィンテージウェアの発見からすべてが始まる。

Extensive knowledge and hard work are two aspects that are required designing a reproduction. The challenge to preserve and recreate items from the past has intrigued anyone with an understanding of vintage clothing. The process is very organically improvised and nothing starts until the creators discover a vintage piece that they feel very passionate about to reproduce.

Photo by Shunichiro Kai 甲斐俊一郎

Text by CLUTCH Magazine 編集部

WAREHOUSE TOKYO Tel.03-5457-7899

<http://www.ware-house.co.jp>

ヴィンテージスウェットの最高峰が遂に完全再現された。

いま世界中でファンが熱狂しているヴィンテージ古着の二大巨頭といえば、デニムとコットンスウェットである。前者は工業製品のため大量に生産されたものだが、後者はチーム単位で作られたアスレチックウェアで生産数が少なく特に人気の高い1940年代以前のものであると、残存数も激減するため非常に珍重されている。その中でも、コットン素材の2トーン

ン仕様のものは、クルーネックスウェットシャツもパーカも、1920年代終わりから30年代前半の極わずかな期間しか生産されておらず、希少性が非常に高い。数年前まではニッチな存在で、一部のコアなヴィンテージファンの間で取引されていたが、いまはデニム同様に認知され、希少性の高さから市場価格も急騰。パーカはその筆頭といえる存在である。

そんなパーカの最高峰がこちら。Champion製の『Olympic Champion』というラベルが付く、メイソン州のヘブロン高校の1着だ。ちなみに、1934年のヘブロン高校の卒業アルバムに、このパーカの着用写真が掲載されていたことも確認されている。Eicoses-Talonと呼ばれる1932年製のジッパーをフロントとフードに装備し、肉厚なダブルフェイスという仕様は、このパーカがアウターとして使うことを想定して作られたことを物語っている。この幻といえる唯一無二のパーカを、WAREHOUSEが完全再現し、今季遂にリリースされる。





Patch
Green / Beige



Patch
Beige / Green



Plain
Green / Beige



Plain
Beige / Green

ヴィンテージジパーカの最高峰、降臨。



JOHN GLUCKOW

Lot JC-CS11 The Olympic Champion Sweat Parka

Plain: ¥53,350 (Size XXL ¥55,550) Patch: ¥57,750 (Size XXL ¥59,950)

もとにしたヴィンテージを所有していたのが John Gluckow 氏で、WAREHOUSE が手掛ける同氏のレーベルからリリース。ヴィンテージの中でも特にアスレチックウエアに精通した同氏をもって、これ以上のパーカはないと言わしめた1着を完全再現。ジッパーも型から作り、フェルトのレタリングの有無、ヴィンテージと逆配色も入れた計4パターンをラインナップする





Glasses That Enhance Your Style!!

The existence of eyeglasses has changed from the past. While they are a tool to correct one's vision, they are also required to be a fashion tool to enhance one's own style. As people get older, the significance of their existence grows, and they have become indispensable for creating a deep, austere, and sometimes elegant appearance that matches one's age. In an age where people coordinate their glasses as they do their clothes, DIGNA Classic glasses, which pursue details and comfort, have become an important fashion tool that determines style, just like shoes do for those who are particular about their appearance.

眼鏡という存在が、昔とは変わってきた。

視力矯正のためのギアでありながら、
自分のスタイルを引き立てるためのファッション・ツールという要素が求められる。
歳を重ねるほどにその存在意義は大きくなり、年齢に合った深みや渋さ、
時に上品な佇まいを演出するのに欠かせない存在になっている。
洋服と同じように眼鏡もコーディネートする時代になったいま、
ディテールや掛け心地を追求するDIGNA Classicの眼鏡は、
こだわりにある者にとっての靴のように、
スタイルを決定付ける重要なファッション・ツールになっている。

Photo by Shunichiro Kai 甲斐俊一郎

Text by CLUTCH Magazine 編集部

Model by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦

<https://www.brick-photo-garage.com>

DIGNA HOUSE Tel.03-5843-1612 <https://www.digna-classic.com/>



DIGNA Classic 956E Jett

『Jimmy』のバントシェイプである『Jett』というモデル。こちら10度傾斜のフロント丁番を採用してリニューアルし、50年代らしさを増した魅力的な1本だ。¥39,600_



DIGNA Classic 955E Jimmy

1950年代のアメリカで誕生したウエリントンをもとにしたDIGNA Classicのアイコン的なモデル。独自開発した10度傾斜のフロント用丁番を使ってリニューアルし、さらにクラシックな佇まいを増した。カラーレンズ追加で¥44,000_



DIGNA Classic 911

イチヤマという鼻パッドのないヴィンテージフレームを再現しながら、日本人の鼻にフィットする最良の掛け心地を実現。彫金風の意匠も特徴だ。テンプルには弾力性のあるチタン合金『ゴムメタル』を採用。カラーレンズ追加で¥40,700_

自分のスタイルを
演出するのは洋服だけじゃない。
最後の決め手になるのが
DIGNA Classicの眼鏡なのだ。



DIGNA Classic 926E

メタルリムの外周にアセテートを巻き付けた「セルマキ」と呼ばれるモデル。眼鏡の本場、鯖江でも数人の職人しか成し得ない特殊な構造によって、カラーリングでは味わえない特別な質感を楽しめる魅惑の1本だ。特殊丁番切削「ワンデ」も上品な佇まいを引き立てる魅惑の1本だ。¥38,500_



Genuine tortoiseshell spectacle frames

本 亀 甲



The Washington Convention strictly bans commercial trade of tortoiseshell from sea turtles.

Historically, this material arrived in Japan from China in the late 6th century, with serious production beginning in the Edo period during the 17th century.

Even Ieyasu Tokugawa, first shōgun of the Tokugawa shogunate famously wore tortoiseshell glasses.

Today, such frames are extremely rare due to material scarcity. Yet, a Nagoya store—BLACK SIGN Main Lodge—maintains an impressive collection of authentic tortoiseshell frames, preserving this intricate craft's legacy.

ワシントン条約による規制で、タイマイの商業取引は禁止されている。鼈甲（べっこう）はタイマイの甲羅の加工品。6世紀末に中国から日本へ伝来したとされ、国内で本格的に加工製品が作られるようになったのは17世紀、江戸時代と言われている。かの徳川家康も愛用したのが鼈甲の眼鏡だ。

現在では希少価値の高い素材のため、本鼈甲のフレームは、滅多に見られるものでは無くなった。しかし、そんな本鼈甲のフレームばかりを多数在庫し、販売しているショップを名古屋市内で見つけた。まさかの質と量を誇る「BLACK SIGN Main Lodge」のコレクションである。

Photo by Masahiro Nagata 永田雅裕 Text by CLUTCH Magazine 編集部
BLACK SIGN Main Lodge Tel.052-734-6914 <https://blacksign-lodge.jp/>

日本では色が薄く厚みのある鼈甲フレームが希少性が高く、高価な傾向がある。コレクションの中でも最高峰がコレだ。
¥418,000_



2トーンの色で極厚なウエリントン型フレーム。使ううちにノーズパッドのフィット感が高まるのも本鼈甲ならではの
¥264,000_



斑模様アクセントになっている濃色本鼈甲のボストン型フレーム。ややフレーム自体が細身のためリーズナブル
¥85,800_



濃色の本鼈甲を使ったプロタイプ。厚みと幅のあるテンブルのデザインが特徴の一品。コレクションの中でもわずか
¥220,000_



BLACK SIGN オーナーの岡本隆則氏自身が本鼈甲のフレームコレクターで愛用者。「すべて一点もののヴィンテージなので、サイズが合えば幸運です」とのこと



ライフスタイルを 彩るジュエリー。

アートに例えられるほど美しいジュエリーを生み出すHorizon Blue。その創作意欲はライフスタイル全般にまで範囲を広げつつある。今回の陶器のトルソーは、オーナーであるTakaをモチーフに、実際に施しているタトゥーと同じデザインを入れた唯一無二のプロダクト。ジュエリーケースでありながら、お香立てとして使うことができる魅惑の逸品である。

Photo by Shunichiro Kai 甲斐俊一郎
Text by CLUTCH Magazine 編集部
Horizon Blue Jewellry
<https://horizon-blue-jewelry.com/>

To Go Beyond The Jewellery.....

Horizon Blue, known for its artistic jewelry, is expanding its creative vision into lifestyle products. Their unique ceramic torso, modeled after owner Taka's own tattoo design, serves as a versatile piece—functioning both as a jewelry case and an incense holder, blending personal artistry with functional design.

すべてアーティスト
TAKA 私物



左上から
 Bull Bangle
 Ripple Arabesque Bangle
 10cm K18 Head Eagle Type1 Bangle/TQ
 Horizon Bangle/K18 Eagle Crest
 Twist Feather Bangle/K18 Sun Crest
 Sun Crest Bangle
 Side Sunrise Bangle



左から
 K18 3cm Eagle Ring
 Stamp Eagle Ring
 Wide Feather Ring/3 Separate
 Wide Feather Ring/Point Gold
 Billow Feather Ring/K10 Sunset Gold Finish
 Eagle Crest Ring/Gloss Finish
 5cm K18 Head Eagle Ring



すべて参考商品

“ORE TO MONO”

“Shopping” is an important keyword in our everyday lives, and according to Atsusuke Tagaya, designer and founder of Stevenson Overall Co., the feeling of excitement that you experience when buying things represents the true essence of shopping. This series puts a spotlight on the various items purchased by Tagaya that “add a sense of excitement” to his everyday life.

日々の生活での「買い物」は重要なキーワードであり、モノを買うことでテンションが上がるのが、買い物の本質だと語る Stevenson Overall Co.の代表であり、デザイナーである多賀谷氏。

そんな氏が日々の中で手に入れた「アガル」モノたちを紹介する散財連載。

Photo by Takuya Furusue 古末拓也
Topanga Co., Ltd. <http://www.soc-la.com>

多賀谷強守
Atsusuke Tagaya

Stevenson Overall Co.の代表であり、デザイナー。ヴァンテージのワークウェアにインスパイアされたプロダクツを独自のセンスで再構築する。素材、縫製のみならず、ディテールワークまで緻密に計算されたプロダクツが真骨頂。テンションを上げるための買い物とお酒は必須で、好きな銘柄は菊正宗純米

俺とモノ

PUMA FAST-RB Nitro Elite Race Suede

見た目の奇抜さから、流行に乗ってみたいで買ったプレミアムスニーカー。しかし、履いてビックリ。想像以上の履き心地。本来はレース用に作られた本格ランニング用なので超ハイスpek。スウェードを使ったデザインといい、最近のPUMAは良いかも



I picked up these eye-catching PUMA sneakers on a whim, drawn in by their unique look. To my surprise, they're incredibly comfortable—far more than I expected. Originally designed for racing and serious running, these shoes are a high-performance marvel. The suede detailing adds a stylish touch, proving PUMA's current design prowess is seriously impressive.



Newspaper Bag

そんなに古いものではないが、デザインソースにはもってこいの、オレンジを挿したカラーリングが目止まったニュースペーパーバッグ。バイク移動の時に役に立ちそう。収納力もあって、みんながこの手のバッグを使っている理由がよくわかる

This newspaper bag might not be vintage, but its design is captivating—especially with that striking orange color. It's perfectly suited for motorcycle trips, offering ample storage space. Its popularity among riders is immediately understandable once you see its practical, eye-catching design.



M-65 Field Jacket “Tiger-pattern”

茨城県のつくばにあるParadise Valleyは顔を出す必ずつきがある古着屋さん。先日、巷で大人気のタイガーパターンのM-65フィールドジャケットを見つけた。自分にはちょっと小さいサイズだが妻にはピッタリのサイズなので迷わず購入

Paradise Valley, a vintage clothing store in Tsukuba, Ibaraki Prefecture, never disappoints. Recently, I found a Tiger-pattern M-65 field jacket. It was too small for me but fit my wife perfectly, so I bought it without hesitation!

LEVI'S Western "Short Horn" Jacket

千葉のDesert Snowで見つけた、いわゆるショートホーンタグが付いたLEVI'Sのデッドストック。サイズも40とゴールデンサイズで、けっこう値も張ったが悩まず買うことに。コロラド州ラフンタの何かのチームジャケット



At Desert Snow in Chiba, I discovered a dead stock LEVI'S jacket with a rare short horn tag. Size 40—truly the golden size—was pricey, but we didn't hesitate. It turned out to be a team jacket from La Junta, Colorado.

Tribal Camo Trousers

1990年代にアメリカ軍が試作したトライバルカモフラージュ。残念ながら制式採用にはならなかったが、いまになって古着愛好家やミリタリーマニアの間では大注目となっている。つくばのParadise Valleyで出会えた自分サイズ



Tribal camouflage—a fascinating military design prototype from the 1990s. Though never officially adopted by the U.S. military, it has become a prized find among vintage and military fashion enthusiasts. I discovered my perfect size at Paradise Valley in Tsukuba, making this rare piece a true collector's treasure.

All-over Pattern Cap

何の柄だか分かりにくいですが、よく見ると星条旗をモチーフにしたデザイン。この生地を再現したプリント生地を作りたかったが、6枚パネルとパーツが小さすぎて、全体像を把握するのが困難で断念。ソコソコ高かったので残念



The pattern was hard to discern at first, but upon closer inspection, it featured a star-spangled banner motif. I considered recreating the design as printed fabric but gave up—the six panels were too small to capture the full picture. A shame, especially given its high price.



NIKE AIR JORDAN Nylon Jacket

NIKEからAIR JORDANブランドが別れる前のナイロンジャケット。JORDANロゴに衝動を抑えられない人は俺と同世代に多いはず。ほぼ新品のグッドコンディション！ BULLSカラーも嬉しい

This nylon jacket was made before NIKE and AIR JORDAN parted ways. Many from my generation can't resist the iconic JORDAN logo! It's in great, almost-new condition, with a stylish BULLS color. Available now at Paradise Valley.

Blue-ray Disc "The Wanderers"

アメカジ業界人の間では伝説となっている映画『The Wanderers』だが、観たことはあるもストーリーの記憶がない。あの有名なチームジャケットを再度検証するために購入した。Blue-rayが出てるとは……



The movie *The Wanderers* is iconic in the American casual wear scene, but although I've watched it, I barely remember the story. I bought the Blu-ray to revisit its legendary team jackets—didn't even realize it was available in that format!

Targeting of Ball Game

高さ60cmほどの看板かと思ったら、ボールを口の中に投げるゲームの的。ユーモラスに描かれたビエロと、そのカラーリングはインテリアにちょうどいい。アンティークのオブジェとしてバツグンのアイテムだ

What looks like a 60-cm-tall billboard is actually the target of a game where you toss a ball into its mouth. The playful clown design and vibrant colors make it perfect for interior decoration. A truly excellent antique object d'art!



Japanese Spices

秀吉の朝鮮出兵の時に大陸から持ち帰られたという唐辛子。国産唐辛子の聖地は唐津なんだとか。そんな唐津には唐津ピリカラ協会まであった。ほどよい辛さの一味（赤獅子、青獅子）と七味（七宝丸）は缶のデザインも秀逸

Chili peppers were introduced to Japan during Hideyoshi's invasion of Korea and have since flourished in Karatsu, known as the holy land of domestically produced chili peppers. Karatsu even has a "Pilikara" (mild spice) Association. The moderately spicy Ichimi and Shichimi varieties, available in cans, are particularly excellent.

YOUNG GUN MEETS E CLOTHING



Vol.47 ➡ Woolrich MACKINAW JACKET

We wondered what would happen if we combined items loved by the older generation who experienced different trends in Japan, such as the vintage trend or the used clothing trend with the style of the younger generation, and what this chemical reaction between generations would produce in terms of fashion hints.

世代を超えて愛される服たち。

いわゆるヴィンテージ、古着などといった、日本でのかつてのブームを経験した世代には馴染みのあるアイテムを、若い世代の感覚で着こなしたら……。そんな昔から愛され続けるヴィンテージアイテムとヤングジェネレーションの感性が生む化学反応は、新たな着こなしを教えてくれるヒントになるかもしれない。

Photo by Masahiko Watanabe 渡辺昌彦 Styling by Manabu Harada 原田学
Model by YUTO

PICK UP ITEM

1960s Woolrich MACKINAW JACKET

¥14,080_
loco Tel.03-5708-5398

1980s UNKNOWN MACKINAW CAP

¥3,180_
loco Tel.03-5708-5398

**1990s Woolrich
L/S TURTLE NECK T-SHIRT**

¥12,500_
SUNTRAP Tel.03-5378-3260

1940s LUMBER APRON

¥15,180_
iti vintage clothing & humor
Instagram @iti_vintage_humor

**1980s EAST-PAK
NYLON DUFFEL BAG**

¥16,500_
SUNTRAP Tel.03-5378-3260

**1950s LOWE & CAMPBELL
ATHLETIC WOOL PANTS**

¥32,780_
Ensemble Tel.0422-69-2795

**1970s Etonic
STREET FIGHTER
SNEAKERS**

¥16,390_
DESERT SNOW CHIBA
Tel.043-225-9600



www.soldierblue.co.uk

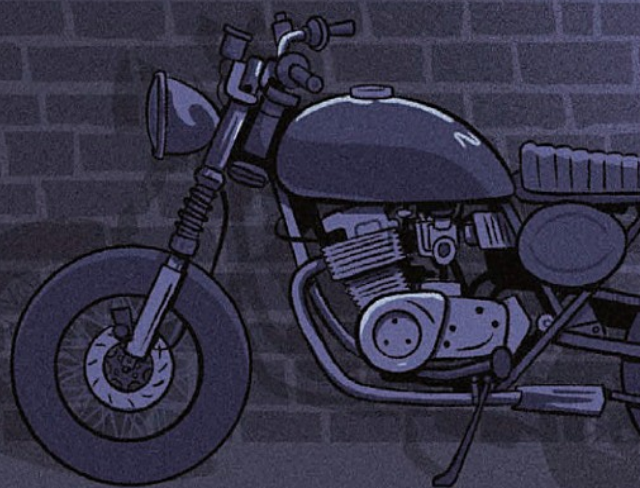
SOLDIER BLUE DENIM WORKS

No. 38
TOYNBEEST

Using rare vintage machines, we are the leading supplier of upcycled vintage garments and also offer a unique service for repairs, alterations & customisation of denims.

We are SOLDIER BLUE.

38 Toynbee Street,
London E1 7NE,
England, U.K.



 [soldierbluelondon](https://www.instagram.com/soldierbluelondon)



SON OF A STAG

Our mission is to deliver the very best clothing, denim jeans and footwear from all around the world.

Feature outfit:

- * Spellbound Jeans in an Authentic Repair Wash.
- * Smith Sato Suzuki Denim Shirt.
- * Smith Sato Suzuki Tee .
- * Red Wing 0875 classic Moc toe Boot.
- * Merz b. Schwanen Cotton Socks.
- * Stetson Hatteras Toyo Flat Cap in Nature.

www.sonofastag.com

 [sonofastag](https://www.instagram.com/sonofastag)



FREEWHEELERS AND COMPANY



SPELL BOUND



FULL COUNT





How should one dress for and overcome a winter that arrives suddenly?
Developed from the extremely practical purpose of being
able to "withstand harsh cold" and simultaneously embodying a rich historical narrative,
the flight jacket is precisely the optimal solution.
This winter, discerning men will appreciate the exceptional flight jacket from THE REAL McCOY'S.



ARE YOU READY FOR THIS WINTER?

The REAL McCOY'Sで男の冬支度。

突如訪れた冬をいかに装い、乗り越えるか。「厳しい寒さに耐えうる」という
極めて実用的な目的から開発され、かつ歴史的なロマンも大いに湛える
フライトジャケットは、まさにその最適解と言える。
The REAL McCOYSが繰り出す男の飛行服を、この冬こそ堪能するのだ。

Photo by Yoshika Amino 網野貴香



発売中

The REAL McCOY'S

The REAL McCOY'S、JOE McCOY、BUCOのプロダクツを網羅する2025年版のファンブック。フライトジャケットの変遷やレザーのお手入れ指南など、コラムも充実

全144P ¥1,650_
購入は下記 URL から
<https://club-lightning.com>

VEST, FLYING WINTER, TYPE C-2

夏季用フライトジャケットであったA-2のために1934年に採用されたウール製のインナーニット。夜間や高度飛行時の防寒着として活躍した。非常に珍しい仕様だったミックスカラーのウエストリブ、1940年代のベル型ファスナーを使用する。¥59,400_



TYPE A-2 REAL McCOY MFG. CO.

A-1の後継として1931年に制式化され、累計20万着もの生産記録が残る「史上最も大量生産された」レザージャケット。The REAL McCOY'Sが正規コントラクターだったというユニークでリアリティのある設定のもと、最高峰の技術を集約して製作。¥264,000_



ヴィンテージという概念が存在する世界には、必ずコレクターが存在する。
そのカテゴリーは細分化されており、デニムのようにメジャーなものから知る人ぞ知るニッチなものまで、
奥深い世界が広がっている。そんな様々なジャンルのコレクターを、テーマごとにフィーチャーし、
膨大なコレクションの中から厳選した逸品を毎号ここで紹介していく。

オリエンタル文化が詰まった美しきペルシャ絨毯。



Profile

織也スィーナ。1983年生まれ。イラン出身。イラン人の父と日本人の母を持つ。5歳の時に来日。自身のキャッチコピーを“畳の上のペルシャ絨毯”と表現するように、日本とイランの文化が混ざりあった空間で育ったことが、今に繋がっていると回想。大学卒業後、自身のルーツを追求するためにイランで兵役に務める。退役後に、日本の一流商社に入り、中東エリアの駐在員として活躍。2017年に退職後、輸出入業で独立。家業で40年続くペルシャ絨毯卸売業を事業分離し、日本で曲解されたペルシャ絨毯をモダンなライフスタイルに提案するFARSHINAを立ち上げる。現在はペルシャ絨毯の輸入や製作を行い、TRADMAN'S BONSAIやOLDMOUNTAINなどの名だたるブランドと協業。ペルシャ絨毯の起源は、今のイランがあるペルシャ帝国にて約2500年前に生まれた。伝統的な製法は今も変わらず、品質の高さや一家相伝的な文化から、数百年前のアンティークも未だに発見できる世界。日本では、一説によると千利休が輸入したという逸話もある。従来のペルシャ絨毯のイメージを覆すような提案をしているので、是非とも彼のインスタグラムをチェックしてほしい。
Instagram
@carpet_farshina

The Collectors

Vol.39

Persian Rug

by Sina Oliya

In the world of vintage, collectors exist regardless of the genre.
The categories are very diverse, ranging from major items
such as denim to more niche products that many people may not even know about.
We featured collectors of various genres by theme and will be introducing
their selected items from among their vast collections.

Photo by Katsutoshi Shimizu 清水克俊 Text by Shuhei Sato 佐藤周平



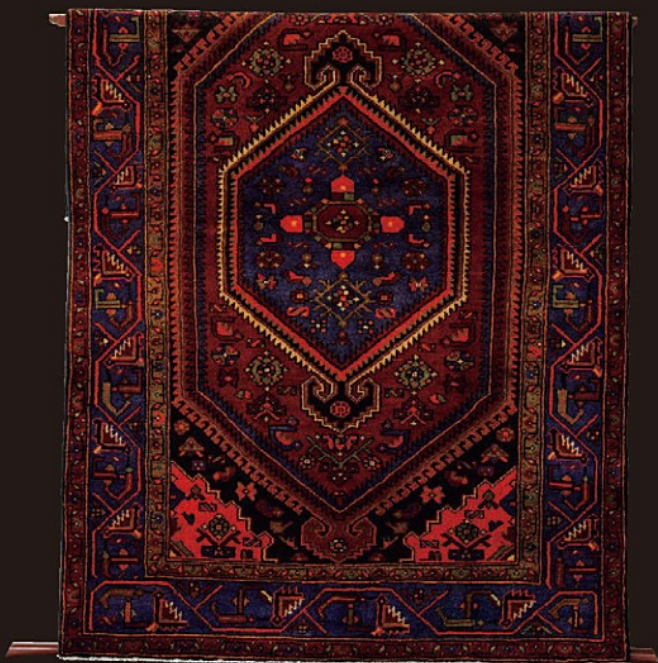
1980s DARI

イランの文化や歴史を担ってきたイスファハンにある著名な工房であるダーリで織られたもの。年代的には旧くないが、その美しい模様とブルーのカラーリングが光るトップピース



1910s Unknown

その作風から、多くの名門があるイスファハンで織られた絨毯であるが、工房までは特定が不明。ウール95%、シルク5%の割合で織られており、驚くほど細い糸で編み込んでいる



1960s Hamadan

右と同じハマダン工房で織られたものなので、その作風がよく似ていることがわかる。ペルシャ絨毯は、日本で言う世襲制に近く、代々受け継がれているので、作風で工房や地域がわかる



1960s Hamadan

首都のテヘランから南西に約360キロ離れたイラン最古の都市のひとつ。山の麓にあり、緑に囲まれた山岳地帯だけに、その自然を反映したような作風。ウール100%の織りである

1970s
Yalameh

イラン中央部の遊牧民によって織り上げられる伝統的なペルシャ絨毯。他のエリアと比べると鮮やかなカラーリングと幾何学模様を得意としており、かなり個性的。ウール100%



1910s
Qom Aminian

コレクションの中でももっとも美しいと評するオリエンタルな1枚。砂漠の中にあるオアシスを表現したような美しいブルーなどの染色は、すべて草木染めでシルク100%





1980s Seyrafiyan

年代的にはそこまで古いものではないが、このSeyrafiyan工房は、数あるベルシャ絨毯の作り手の中でも最高峰に位置する。その美しい柄を見ると、名門たることが直感がわかる



1880s Unknown

19世紀に生産されたスペシャルピースで、シルク100%という贅沢な作り。その柄の細かさは、現代では作れないような仕上がりである。イランのカシャーンの工房が作ったようだ



1940s Unknown

シルク製品や絨毯を得意とするイラン北東部の民族コミュニティであるトルクメン。この個体はシルク100%であり、その風合いは言わずもがな、素材特有の美しい発色も特徴である



1970s Basilik

1949年に氷河の中から発見された約2500年前のペルシャラグを再現した1970年代の作品。
バジリクで生産されたもので、まるで壁画のようなデザインが際立つミュージアムピース



1910s Hereke

現存するラグの中で、もっとも織り目が細かいギネス記録を持つスペシャル。ペルシャ絨毯はその細かさをノット数で表現するが、高級品で100万、美術品で150万だが、これは676万



1950s Unknown

アフガン地方で織られた1950年代頃の作品。なんとも言えないキャメルカラーをベースにしたカラーリングが絶妙。ウール100%ながらも、かなり細い糸でしっかりと打ち込んでいる



1980s Emad Zadeh

数々の名門が揃うイスファハンにあるEmad Zadehが手掛けたマスターピース。ウール95%、シルク5%という配合である。こちらも伝統的な草木染めにて、この色合いを表現した



1980s Seyrafiyan

まるで引き込まれそうな美しいブルーのカラーリングが光る当作品は、ヘルシャ絨毯の中で最高峰であるSeyrafiyan。膨大な時間を掛けて、草木染めによる丁寧な色出しが最大の魅力だ



1970s Unknown

今まで出てきたヘルシャ絨毯とは一味違う細かなヘイズリーパターンを落とし込んだデザイン。工房は不明であるが、マシュハドの300キロ南にあるムードという町で作られたもの



1970s Unknown

工房は不明であるが、その作風などから名門が揃うイスファハンにて生産されたもの、自然からインスピレーションを受けた模様がセンスよく配され、差し色のブルーがアクセントに



1980s Seyrafiyan

ペルシャ絨毯の最高峰の工房で制作されたスペシャルピースは、螺旋状の曲線を組み合わせた伝統的なイスリムパターンと呼ばれるもの。ウール80%、シルク20%の割合となっている



1940s Unknown

オリエンタルなレッドを見事に草木染めで表現した作品は、ペルシャ絨毯の美学である左右対称を忠実に守っている。バルーチというエリアで織られたオールドのペルシャ絨毯である



1800s Unknown

圧倒的な雰囲気を持つこちらは、ペルシャ絨毯のプロトタイプと言われる伝統的なデザインを、無染色にてウール本来の色だけで表現。滅多にお目にかかれないキリムの最高峰である



1880s Unknown

150年近く経った今も色褪せることのないオリエンタルなアンティークラグのコレクターズモデル。カシャーンで製作されたイスリムパターンで、シルク100%ならではの発色が最上

N e x t

次号予告

24th March 2025

CLUTCH Magazine vol.99 (5月号)

特集

TOP SECRET

ファッション ディレクターのこだわり。

発売日は予告なく変更になる場合があります。
最新情報はInstagramでご確認ください。

 @clutchmagazinejapan



HERITAGE

CLUTCH Magazine vol.98

2025年2月号

発行人 武井宏員

Publisher Hirokazu Takei

編集人 松島睦

Editor Atsushi Matsushima

発行・発売 株式会社ヘリテージ

<https://www.heritage.inc>

〒162-0808

東京都新宿区天神町8 神楽坂Uビル7F

メディアセールス(広告)Tel.03-3528-9794

販売企画部 Tel.03-3528-9791

印刷 大日本印刷株式会社

無断転載・複製を禁じます

©Heritage inc.

DIGNA

Classic



YOU CAN IMAGINE.
THIS IS IT.

Peace
with Clip-On Sunglasses

DIGNA Classic 309

15th ANNIVERSARY LIMITED



pure blue japan®

www.purebluejapan.jp

Photo by Nanako Hidaka

※本ページ以降は左開きです。最終ページからお読みください。

CLUTCH
Magazine

CLUTCH
Magazine



BENCI BROTHERS



PRE-SHRUNK - INDIGO BLUE DENIM

EASTMAN ROUGHWEAR®

TRADE    MARK

SUPERIOR  GARMENT

Lot

1960 XX

QUALITY CLOTHING

GRADUATED P... R PERFECT FIT



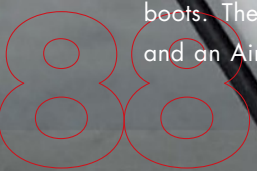
ELMC.CO



Parting Shot

Jack Holt addresses the style and panache of the 1950s American bush pilot in his vintage Eastman Leather A2 Jacket, vintage shirt, chinos and Red Wing Iron Ranger boots. The headwear is the A3 service cap by Pap Nui and an Aircraft Restoration Co. x Pap Nui collaboration is

expected soon. The headset is original and contemporary to ARCo.'s 1954 Piper PA-18 Super Cub with Alaskan bushwheels for backcountry flying. This is the ultimate short take-off and landing aircraft of its period and is still used in rugged terrain today.





Painter Pants

311W

Jelado (JP949311W)

Colour: Indigo

Size: XS - XXL

Price: ¥35,000 + Tax

These classic work pants are made in the Blue Label version of JELADO's ultimate quality LAST RESORT denim. Developed to emulate the fabrics of the 1940s, JELADO's LAST RESORT Blue Label, 10.5oz light weight denim was created specifically for items originally manufactured in the

first half of the 20th century, like these historically correct painter pants. Designated as faithfully reproduced garments from history's greatest denim standards, the fabric, metal trimmings and sewing are all carefully analysed and remade to be worn today.



41 Khaki Last Resort Chino Cloth (Stencil)

Jelado (AG94341)

Colour: Khaki, Olive

Size: XS, S, M, L, XL, XXL, XXXL, 50

Price: ¥34,000 + Tax Size 50: ¥36,000 + Tax



41 Khaki Last Resort Chino Cloth

Jelado (AG94341A)

Colour: Khaki, Olive

Size: XS, S, M, L, XL, XXL, XXXL, 50

Price: ¥30,000 + Tax Size 50: ¥32,000 + Tax



41 Khaki: Jelado's Unique Vintage Fabric for Superior Chinos

Perhaps Jelado's most important contribution to the global vintage and replica clothing communities, 41 Khaki is a textile that softens and fades like those pants that become 'old friends' and you never want to wear out. As you wash

and wear any chinos made from this textile, they quickly fade and wear as if an original 'deep rise' model from the 1940s – but with an improved cut.

Jelado's Last Resort Blue Label: Just Like the 1920s, 30s and 40s

It's taken Yohei Goto of Jelado decades to reach this point in denim development, with a lighter weight (10.5 oz) denim that looks, feels and wears like original vintage workwear. This is

part of the denim story that built America between 1920 and 1950, and Jelado's LAST RESORT Blue Label apparel takes you back to that time when hard work required tough clothing.



Coverall 491J

Jelado (JP94491J)

Color: Indigo

Size: XS - XXL, 50

Price: ¥45,000 + Tax

50: ¥54,000 + Tax

To capture the appearance of the workwear manufactured between Roosevelt's New Deal and 1946, the newly developed 10.5oz LAST RESORT, Blue Label denim was used. Its historic look and feel are achieved by the use of uneven threads, that are woven in three

different thicknesses, allowing you to enjoy the unique warp effect. These are inspired by all-time classic coveralls, which have been manufactured to historic standards from this glorious period in American history.



Overall 391B

Jelado (JP94391SB)

Color: Indigo

Size: XS - XXL

Price: ¥50,000 + Tax

Made from 10.5oz LAST RESORT, Blue Label denim, this model reproduces the overalls from the Great War and Depression period (c.1915 to c.1930) in every way possible, from the exactness of the textile's look, touch

and wear, to the aged buttons and metal trimmings. However, Jelado goes further with this garment and uses a white thread on the top-stitch with a black thread below, to give a vintage appearance.



Age of Longing 407EXX

Jelado (JP94407E)

Colour: Indigo

Size: XS, S, M, L, XL, XXL, 50

Price: ¥39,000 + Tax

L - XXL: ¥41,000 + Tax

50: ¥49,000 + Tax

Age of Longing Black 407EXX is Jelado's take on the legendary denim jacket, made using 15oz Black Label LAST RESORT

denim. The classic flap pocket and cinch-back are standard, but this item even has a vintage-correct thread count, for authenticity.



55 Denim Jacket 406XX

Jelado (JP94406)

Colour: Indigo

Size: XS, S, M, L, XL, XXL, 50

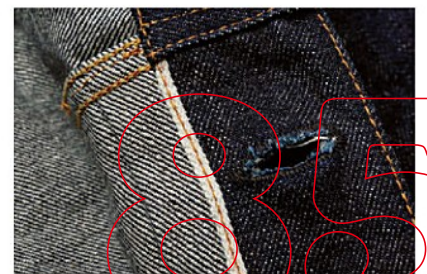
Price: ¥35,000 + Tax

L - XXL: ¥37,000 + Tax

50: ¥45,000 + Tax

55 Denim 406XX Jacket is made from White Label LAST RESORT denim, that is designed to resemble vintage denim cloth in as many ways as possible. This is done by deconstructing

original textiles and analysing them element by element. Cut with a historically inspired silhouette, and with period-correct buttons and front pleats, this is a selvedge denim classic.



Age of Longing

301XX

Jelado (JP94301)

Colour: Indigo

Size: W28 - W40

(W34 - up even inches only)

Price: ¥28,000 + Tax



Age of Longing 301XX White Label Jeans are the closest to a period-correct pair of vintage jeans Jelado has probably ever made. Using every possibility in the analysis of vintage and

deadstock denims from the past, the leather patch, tread type and stitch count are only part of a story that involves intense research over years.





**Age of Longing
Black 301EXX**

Jelado (JP94301E)

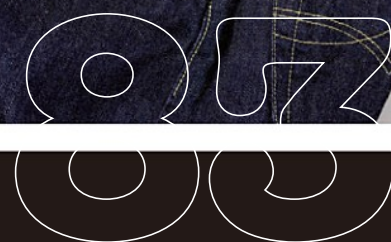
Colour: Indigo

Size: W28 - W40

(W34 - up even inches only)

Price: ¥32,000 + Tax

Age of Longing Black 301EXX Jeans are Jelado's interpretation of a classic early 1947 model, of which Jelado has many examples in their collection. Made from Jelado's Black Label LAST RESORT denim, with leather patch, thick belt loops and a unique selvedge line, these jeans have an original vintage feel.



Jelado's Last Resort: Yohei Goto's Next-Level Authentic Jeans, Jackets & Chinos

After being a vintage clothing dealer for many years, Mr Goto (this page) gradually formulated a plan to come as close as possible to replicating collectable antique and vintage apparel from American history and myth. Using his experience in handling denims as old as the California goldrush and as relevant as the classic Hollywood movies of the 1950s and 1960s, this respected player in Tokyo's vintage scene founded the brand Jelado in 2005. After almost 20 years in analysing ancient textiles and garments, the designer has a refined insight into their basic construction.

A kickboxer with a professional standing, Yohei Goto has used the same disciplined approach to reach a high-point in the recreation of denim items and khakis, that not only appear to be workwear from another epoch, but have the same feel – and this is special and unexpected. At the heart of these next-level authentic items are a group of denims and khaki twills, that come under the LAST RESORT, White Label, Black Label and Blue Label, that is proudly sewn onto every pocket. Now you can experience the touch and wear of rare and hard-to-get vintage apparel, made by Jelado.



82





(Above and right) Jamie wears:
Original Boots by D Lewis available
today at Lewis Leathers



Lucy & Alex



Thomas



Alex



Inside The Blenheim

A collaboration between the Duxford-based Aircraft Restoration Co. and Spirit of Britain, the recreationists do what they do best and 'recreate'. Years of work on uniforms and kit come together when ARCo. offered access to their 1939 Bristol Blenheim Mk.IF (L6739). A battle of Britain veteran, the aircraft

provides physical and historical context to the group's stylish endeavours. It's hard to imagine, but ARCo. offers exclusive civilian flights to those wishing to experience an aircraft of this epoch and pedigree.

www.aircraftrestorationcompany.com



Freddie







Faye



Thomas



Jordan



Jamie



Dicky



Alan



Spirit of Britain at Duxford's Battle of Britain Air Show

This September, the loose-knit group of style-makers, military enthusiasts and collectors, known as *Spirit of Britain* set-up camp at the Duxford Battle of Britain Air Show in an unparalleled display. This is a performance that continues over a weekend. A theatre in which the fourth wall is removed and the line between what is real and what is simulated blurred to such an extent, a momentary shift in consciousness is entirely possible. What is seen in this encampment, that sits 100m from a row of Spitfires, Hurricanes and a Mustang or two, and within scramble distance of a B-17, both delights and confuses one's perception of reality – the

norm at Duxford. First developed as an airfield in 1917, in WWII Duxford hosted several Hurricane and Spitfire squadrons, piloted by Czech and Polish airmen and the US Eighth Air Force. However, what belies this rich history is the strategic importance of the aerodrome that was also one of the locations at which the Air Fighting Development Unit tested captured enemy aircraft and developed air-to-air tactics. Today, Duxford is part of the Imperial War Museum, that, like *Spirit of Britain*, keeps history alive, so that we all might understand the world a little better.

www.iwm.org.uk/airshows





Men's File would like to thank Richard and Tessa for their kind permission to stage this shoot in the grounds of the White House and Julie Lambert for bringing her immaculate Simca Aronde Plein Ciel to be photographed. We would also like to thank Tilly and Jake, who wore original items from their own collection of 1960s apparel and objects. See their style: [@tillytappenden](#) and [@thepointofficialuk](#)

stylefile



Nouvelle Vague: From the International Style to the Jet Age



Created by Amayas Connell in 1932, the 'White House' is designed in the International Style

Created by Amayas Connell in 1932, the 'White House' is designed in the International Style. Situated in rural Surrey and evoking Le Corbusier's edict of 1927, that a house should be a 'machine for living', the impressive home came 4 years after Basil Ward's 'High and Over' in Amersham, Buckinghamshire (1928), thought to be Britain's first modernist dwelling. Being genuine disrupters of their time, Connell and Ward, were heavily influenced by Le Corbusier and the wider modernist project. Later the pair would team-up with the like-minded Colin Lucas and form the ground breaking Connell, Ward and Lucas, and be key players in MARS, the Modern Architectural Research Group. The White House really is a gem amongst the treasures of British modern architecture and is further enhanced in these images by the arrival of a manifestation of late modernism and the jet age. The 1958 Simca Aronde Plein Ciel is a product of its time, sleek, sporty and unlike the Citroen DS, very American – perhaps that's

why it was never mentioned by Roland Barthes in his collection of essays on modern phenomenon *Mythologies* (1957). With a body designed and manufactured by Facel-Metallon, the Aronde has elements that echo some of Harley Earl's early work for Chevrolet (from the 1951 Le Sabre onwards) with a wrap-around panoramic windscreen, pillarless-look construction and fins – also featured on some of the Facel Vega models. The steering wheel and dash are pure Americana and the graphics on the exterior of the vehicle and on the 1300cc 57hp OHV 'Flash Special' power unit, adopt fonts that seem to owe something to Californian tuning houses, rather than European graphic design contemporary to the car. To add another layer to this medley of modernism, we asked Tilly Tappenden-Lowe and musician Jake Tappenden-Lowe, whose focus is on mid-to-late 1960s styling, to introduce an element of the French New Wave to the photographs, which they have done with some panache.





Photographer Hanson Leatherby, comes suitably attired (it's all original) with a vintage set of Leicas and a plethora of lenses at his disposal.
[@hanson_leatherby_photography](#)



Mark Roberts' (No.607) 1939 Ford Coupe hit 75.23mph on his fastest run.



The paddock/start line is impressive, no matter what your perspective.

Pendine Style 2024

The VHRA's Pendine event each summer has become so much more than a series of beach drags that top 130mph, from a standing start. The variety of machines on show, the auto-literate crowds and the overall good-times vibe has reached new heights and is set to get more intense as individual participants constantly up their game. Contributing to the Americana-orientated mood is the way people dress, and Bamber Johnson is one of the 'stylists'

at the jalopy jamboree. For 2024, the hot rod enthusiast entered his (No.517) 1929 Ford Model A Tudor and hit a top speed of 59.67mph in a close to stock car with period tuning. While Bamber was one of a select group revving-up the sartorial tachometer, a vast array of machines were competing during the first day of the event, some of which can be seen here.

www.vhra.co.uk



Roger Morris' (No.288) 1931 Ford Model A returns to the paddock after a run that only missed the 70mph mark by a fraction of a second.



Bamber wears: Ranch Blouse 'Randall' in natural veg-tan leather,
naval pants and cap by Mister Freedom.

Photography: Simone Parri



A performance that deserves recognition – not the real Nuvolari, but very close. Gloves by Foulon, Milan.





a colleague, in 1988 he embarked on a quest to recreate scenes from the films of Laurel and Hardy (no relation), that included the modification of a 1919 Ford Model T Roadster and a 1924 Ford Model T Tourer, to look like those used by the comedy duo in movies like *Perfect Day* (1929) and *County Hospital* (1932). That was over three decades ago and since then, the performer has added Tazio Nuvolari and George Formby (sitting astride a 1926 Triumph model P 'Shuttleworth Snap') to his repertoire of recreations. However,

like so many who might be described as a 'subculture of one', Graeme Hardy performs to silent applause from hikers and the abundant wildlife of the Peaks and surrounding areas, who go about their business and perhaps wonder if their eyes have deceived them and a long dead champion of the GP circuit really did just pass by driving a 1916 Ford Model T Speedster at full throttle. If you would like to find out where he might next appear, stay tuned to his Instagram account.

@hardy.graeme

Mr Hardy at speed around the Derbyshire lanes in his 1916 Ford Model T Speedster, constructed after a series of original tuning and body modification plans, of the period. Gloves by Foulon, Milan.

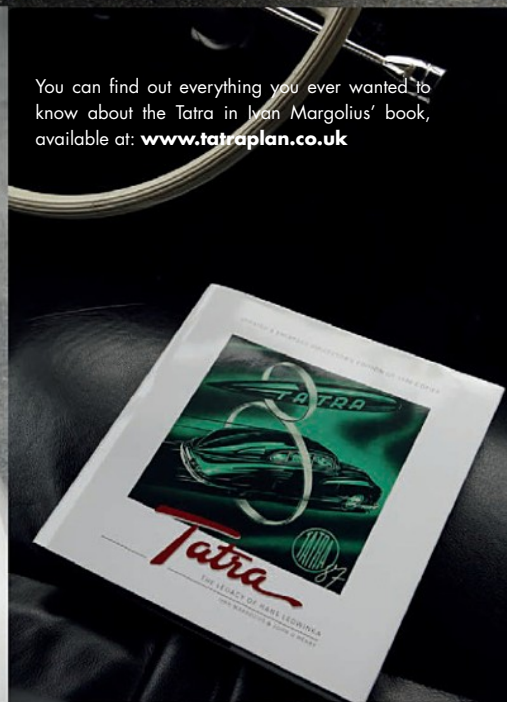
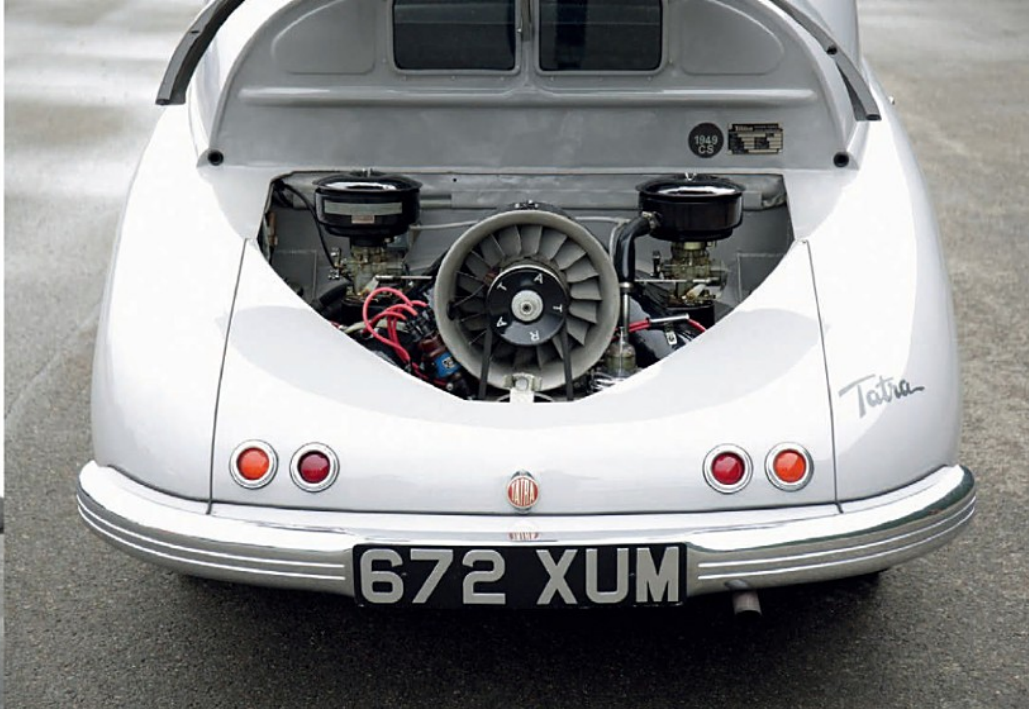


Graeme Hardy: Engineer, Collector and Performer

Photography: Nick Clements

Located in the rural idyll of South Derbyshire (about 2 hours north of London by train), Mr Hardy must be one of the very few individuals in Britain who can claim to have combined both engineering and theatrical performance – on a professional level. This highly unusual combination of careers didn't happen suddenly, but with the gradual realisation that it might be possible to collect old machinery, restore it and then create a total performance around it. Still residing in the village in which he spent his childhood, his formative years

were focused on tuning small-engine motorcycles and riding his Suzuki AP50 moped around the winding turns of the local country lanes – although he eventually graduated to a Z1000. Then amateur racing followed, initially on a Suzuki T500, at nearby Donnington and a career as a welder at one of the world's most prestigious firms in the nuclear power industry. It was much later that Graeme realised that when combined with his obsessive eye for detail, his ability at mimicry might provide a creative outlet away from the shopfloor. Along with





The T600 amongst the permanent displays at the Shuttleworth Collection, to the right is the 1934 Miles Hawk Speed Six.

This story was produced in conjunction with
The Automobile, the world's greatest journal on old cars.
www.theautomobile.co.uk

5





Derek wears: original coat over bespoke suit by Derek's tailor, based in Hong Kong.

1949 Tatra T600 Tatraplan

The story of the Tatra is one of innovation, exploitation, devastation and redemption. Founded in former Czechoslovakia in 1897, the Tatra company originally made cars that looked like everyone else's, until licencing an aerodynamic design by Paul Jaray, who styled the Zeppelin airships. As with all great endeavours, what starts with an innovator is often completed by masters of engineering and the streamlined Tatras produced after 1931 are no different (starting with the V570). Although influenced by the German-speaking world, the firm seemed to embrace the remit to build a car that could match anything Germany could offer. A long-distance express that would eat-up kilometres on the autobahn and offer comfort and stability to the passengers. Acting as chief designer, Hans Ledwinka proposed using an air-cooled V8 power unit for the Tatra 77 (1934), mounted to the rear of an ultra-streamlined body with a startlingly low drag coefficient. Sound familiar? When Germany invaded the former Czech Republic at the start of WWII, the Tatra factory was appropriated and their production turned to the war effort. Perhaps it's no surprise that during the lead-up to German expansionism, a certain Dr Porsche had gained significant knowledge of the marque's production and

development. In the chaos that followed the defeat of Germany and consequent Soviet take-over, Tatra continued with its war work of producing heavy trucks, but also returned to its original aim of producing world-beating automobiles. The motor was stepped down in size and power and the big lump for the pre-war period replaced with a 1.9 flat four engine and the new T600 was designated the Tatraplan. It's worth noting here that it's often said that Ferdinand Porsche's 'people's car' was influenced from what he learned from Ledwinka, so it's ironic that the post-war Tatras seemed a bit like the VW Beetle. This 1950 T600 Tatraplan model is owned by marque specialist and author of *Tatra: The Legacy of Hans Ledwinka*, Ivan Margolius, and is tested here by the newly graduated student of architectural studies, Mr Derek Lee. The shoot location is the impressive Shuttleworth Collection in Bedfordshire, that houses its own selection of streamlined cars and aircraft. During the communist period, the Tatra company focused on the production of commercial vehicles, but also returned to the V8 in a serious attempt at producing a supercar from behind the Iron Curtain (Tatra 603 (1956-75)), but that's another story.

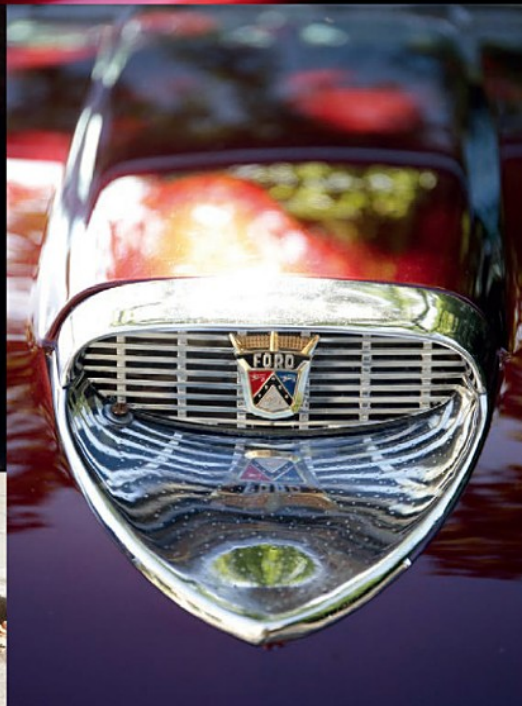
www.shuttleworth.org



Derek wears: self-made leather jacket, that replicates an original 1930s model. 1940s pattern trousers also made by Derek Lee. Original period hat by GA Dunn.



Owner Mick Micetich wears trucker cap by DiCE Magazine and western shirt from his own vintage collection.



(This page) Danielle wears items from her own collection of western inspired clothing.
(Opposite page) Danielle wears sateen Trucker Jacket by Allevol, Japan. Her hat is vintage Stetson.



1958 Ford Ranchero Kustom

Photography: Nick Clements Text: Zack Stiling

'More than a car! More than a truck!' For 1957, Ford introduced something distinctly original, a vehicle with the utility of a pick-up but the good looks of a passenger car; something which could withstand the rough-and-tumble of work on a farm and yet be a welcome and respectable sight making deliveries in suburbia. Just as with anything on wheels in '50s America, the new Ranchero found its way into the hands of the customisers, for whom scallops, lakes pipes and tube grilles were the order of the day. For George Barris, a slightly restyled '57 Ranchero made the perfect shop truck. We've travelled to Richmond (Surrey or Virginia, we forget which) to study a much more recent creation, the '58 Ranchero owned by well-known customiser Mick Micetich. Mick made his début in the custom scene with a flamed Mk I Ford Consul convertible as a teenager in the 1970s, and today is most associated with the scalloped '59 Impala convertible he owned in the '90s and the matt black chopped '50 Mercury which he stills drives regularly.

Mick is not the first notable owner of this Ranchero, however. It previously resided on America's West Coast with hot rod artist Keith Weesner. At the time, it was just black, lowered

and detrimmed. Now, it has a sleek tubular grille, skirted front arches and smooth '57 Plymouth hubcaps. The interior has been refurbished with 1960 Thunderbird seats and a '63 Mercury Comet centre console, and it now wears

a deep coat of House of Kolor's Brandywine Kandy, with a shimmering silver flake roof. Being fitted with a later Ford 302 V8 means that this car is for 'go' as well as for 'show'.

Pictured here with this highly individual automobile, is our own 'Sweetheart of the Rodeo' Ms Danielle Szram, who adds an extra touch of glamour and masses of style to the story, wearing items from her own collection of vintage and antique western themed clothing.





The Best Dressed at Goodwood Revival (2024)

In spite of a few showers, the revivalists were out in force again at this open-air theatre of hot oil and alloy. Goodwood provides an arena where the world's greatest historic cars are tested to their limit and those who have dedicated their lives to mid-century style walk into the limelight for three brief days. Women's fashions dominate this remarkable event, although notable for their attention to detail were Thomas van Parys and Lucas Gomersall, who hit some high notes in the sartorial stakes. It's been said on these pages before, but there is nothing like this anywhere in the world. If you love old, but very fast machinery and you live for style, you cannot miss this.

Goodwood.com



Will



Isabel



Katie



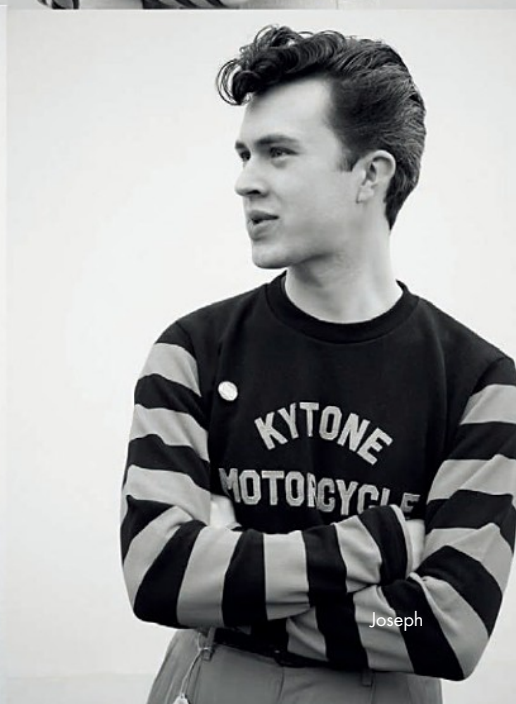
Kirstie



Lucas



Mia



Joseph



David Hermlin and Emilia Quaye (Performers, Berlin)

Photography: Nick Clements

During a short sojourn in London, *Men's File* was able to meet with these exceptionally talented friends and native Berliners, who have revived some of the style and panache of the pre-war era, while introducing their unique and very contemporary ideas into the mix. David, with his matinee-idol looks, is a dancer and leader of The Swinging Hermlins, a dance band of note for which he sings and plays the drums. Very much the Hollywood glamour girl, Emilia is part of a dance duo known as The Mood Sisters. When not jitterbugging to the sound of one of David's totally 'gone' arrangements, the elegant fräulein is studying hard at film school in historic Potsdam. The extent to their ability and the style with which it manifests in music and dance is impressive – to say the least. Follow them online and judge for yourself.

@daveetheewave @strawberrystarlette





@tomcat_6150 (blogger).



Max Rohr, designer
of Max Rohr by GRP.



Mikiharu Tsujita, founder of FULLCOUNT.

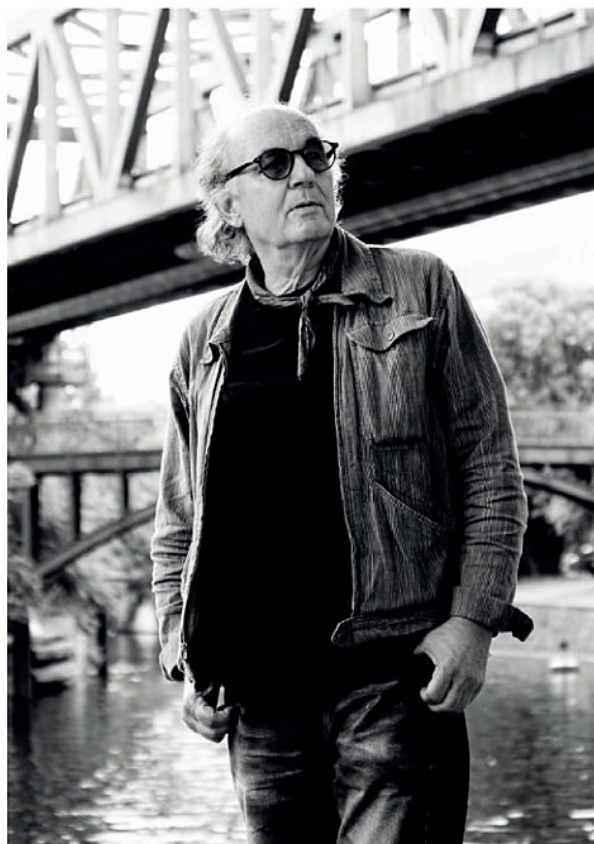


Fabian Jedlitschka,
founder of Pike Brothers.

Union Showroom

With a place of history like no other in Europe, Berlin embodies elements of the ancient, the modern and the postmodern in its architecture, culture and style. In the post-war epoch, the Iron Curtain slammed down right through the middle of the already divided city, cutting it in half. That's when those scenes, that had been outlawed in the early 1930s came back, but not in the form of cabaret and film, but with Bowie, electro-pop and then the gay scene and techno clubs. The wall tumbled over 35 years ago and the stylists moved in, renovating, repurposing and re-mixing. Then the money arrived and funded culture and then the cool coffee shops and cafes opened and fashion filled the streets. That's why Union Showroom is there, in the heart of the new capital of a diverse, multi-cultural and hip Germany. That's why *Men's File* is there too. Invitation only, the next show is: Jan 19, 20, 21. 2025.

unionshowroom.com



Markus Cadruvi, founder of DeeCee style.



Marco Michele Henroid, DeeCee style.



@anubis87_heritage (blogger).



Alex Ripa's Journal of Style

Photography: Alex Ripa

The fencing instructor, stylist and photographer from Rhode Island, is back in *Men's File* with his trusty 1941 Harley-Davidson WL. Here he shows some of his admirable collection of workwear and leather, both old and new, with boots from Clinch, vintage jacket by Cal Leathers, shirt by Eastman Leather, belt by Belafonte, pants by Never Cursed, cap by Papa Nui. This is rugged styling at the highest level. Follow Alex's elegantly photographed sartorial journal on Instagram. [@alexanderleaving](#)





A Cornish Shrimper out of Mylor

Photography: Able Child

Although the waters off the south coast of Cornwall are still rich with sea life, they once teemed with hake, flounder, plaice, sole, whiting, pilchards, cod and shrimp. The fish have moved into deeper waters now and many of the sailing boats that operated out of the Cornish ports have been lost. However, it's still possible to sail a small, gaff-rigged vessel, styled as a traditional fishing boat, in some of the most beautiful and historic waters anywhere in the world. With sailing in his blood, Christian Hofmann of Heimat Textile enjoys navigating the creeks and inlets around the sleepy village of Mylor (near to Falmouth; a starting point for many great voyages – some of which changed history). However, it's not global exploration or piracy that concerns Herr Hofmann, but the effectiveness of the traditional clothing, that kept ancient seafarers warm and dry. In these pictures, the Heimat team use the dramatic Cornish coastline to test their product under real, but rather charming conditions.

heimat-textil.com





Triumph Heritage Collection

Combining old with new, with any degree of success, demands an eye for style and an in-depth knowledge of history. This balance of tradition and contemporary functionality is the basis for the Triumph Heritage Collection and can be seen here being tested with some ancient iron from the Meriden epoch. This is clothing that looks as relaxed in the cafés of Tokyo's Ura-Hara as it does on England's muddy off-road trails. Available from selected dealers across Europe, the mix of outerwear, t-shirts, sweat shirts, denims and accessories evoke the brand's heroic past and yet also look to its relevance in the present. Go to the site for more information on this premium quality – but reasonably priced range.

triumphmotorcycles.co.uk





The 'Final' Triumph Riot 2024 (Japan)

Photography: Kazuyuki Suzuki

Communications: Teruyoshi Sekine

During the last days of March 2024 Kazuaki Kado (right), the founder of the now legendary Triumph Riot, led-out an estimated 400 old Triumph motorcycles from Tokyo towards the mountains of Saitama, to the northwest of the capital. Since 2011 this event has been hip, exclusive and run on a semi-official basis – which is what makes it interesting. In terms of oil, iron and rubber, the get-together has always attracted an unlikely and unequalled collection of unit and pre-unit Triumphs that included pristine machines at concours level, Oakland coppers, desert sleds and café racers. Not forgetting that *Men's File* is a journal of style, it's noted from Suzuki san's excellent photographs that the 2024 Riot continues to be attended by some of the most dapper riders you'll see anywhere on two wheels. This event will be sadly missed.

@triumphriot





1962 Lancia Flaminia Sport Zagato C3

Photography: Marco Annunziata

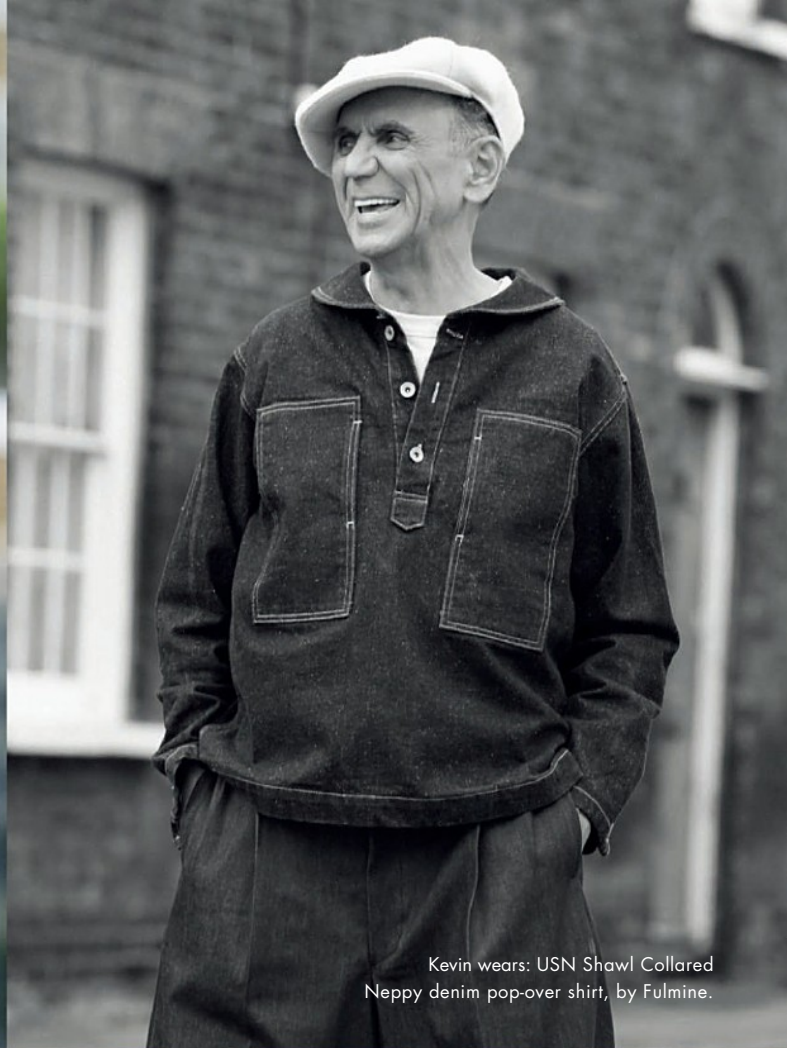
A lesson in modernist design from Zagato's carrozzeria (body shop), north of Milan, this is a classic 'fuoriserie' (out of the series) model. Powered by a triple-carb version of Lancia's classic V6, the ultra-rare 'double bubble' roof model represents the very best of Italian automotive design and engineering of the post-war

period. Seen here on home territory, somewhere in the Tuscan hills, fuoriserie machines were the speciality of coachbuilders such as Zagato, Pininfarina, Touring and Bertone, who dropped their own bodies onto rolling chassis supplied by the marque. Feast your eyes on Marco's evocative images.





Kevin wears: US Army Neppy denim pop-over shirt in baby-blue by Fulmine.



Kevin wears: USN Shawl Collared Neppy denim pop-over shirt, by Fulmine.



Kevin wears: USN Shawl Collared Deck Jacket in washed pink, by Fulmine.



Kevin wears: USN Shawl Collared Deck Jacket in baby-blue with heavy-duty t-shirt in pink, by Fulmine.

Kevin wears Shawl Collared Neppy
Denim Duffle Jacket by Fulmine. Hat by
Franco's



Kevin Rowland x Fulmine (UK)

One of the great mysteries of street-level style is the method by which ideas are transferred from one individual or group to another. Here at *Men's File*, we propose that the agents of change are an exclusive group of individuals, that Kevin Rowland calls 'stylers'. These are individuals with a talent to read the mood and pre-empt the zeitgeist, sometimes by years. Above all, Kevin's original contribution to national culture has been in music, but style has followed close behind and the

front-man of Dexy's is still making a significant mark on the global scene, as a 'styler' par excellence. Big fans of Kevin's music, Fulmine's Tony and Naomi have joined forces with the maestro to produce a highly desirable denim collection that presents a reworked version of US armed forces fatigues in quality Japanese denim. Washed or raw, the more you wear it, the better it gets.

www.fulmine.co.uk



Zack wears: Bronx Jacket, Twin Prong Plain Belt and Denim Jeans by Lewis Leather. Vintage shirt and tie model's own.



Zack wears: Plainsman Jacket by Lewis Leathers.



Zack wears: Countryman Jacket and Scottish Wool Scarf by Lewis Leathers.



Zack wears: Mechanic Boots by Lewis Leathers.

The Bronx in Bloomsbury

When we sent out *Men's File* journalist and photographer Zack Stiling to assess the latest classic offerings from the world's oldest maker of motorcycle leathers, we didn't expect him to be snapped whilst testing some of the brand's oldest and newest items. Already, a proud owner of a pair of Lewis Leathers Mechanic Boots and coveting the legendary Bronx Jacket, the young writer's presence around the avenues and alleyways of London's Bloomsbury evokes scenes from some of the London-based movies of the 1960s. Too many to mention here, most offered a stylish satire on single life in London during that epoch, and featured fast British motorcycles, fashion photographers and even an Ariel Arrow with ape-hangers and Panhead-style saddle bags. In these pictures of Mr Stiling, the low winter sun and misty light remind us of a London when there were few cars and a man in leather turned heads. Lewis Leathers was relevant then and remains totally on-point today.

www.lewisleathers.com



Zack wears: Bronx Jacket, Mechanic Boots
and Denim Jeans by Lewis Leathers.



GET YOUR PAIR

A close-up photograph of a person's hand resting on a dark blue denim fabric. The hand has several tattoos on the forearm, including a large one with a star and a crescent moon. The fingers are marked with the letters 'B', 'L', 'U', and 'E' from thumb to pinky. The background is slightly blurred, showing what appears to be a factory or mill setting with a yellow railing.

BlueBlanket®
Never Without

FOR

CANDIANI
RISERVA

RISERVA is the beating heart of our mill, where a centuries old weaving tradition merges with future innovation, giving birth to Candiani's signature selvedge fabrics.

Candiani
DENIM

Mark Bailey: The New Soul Boys

In the immediate post-punk epoch, the post-soul boys grabbed the reins in a London that seemed to be brimming over with disparate scenes and the innovators from which they sprung. Emblematic of this milieu were names like Philip Sallon, who seemed able to materialise the key players from music, art and fashion at any club at the drop of a Vivienne Westwood Mountain Hat (that big one that McClaren wore in his Buffalo period). This was the environment in which the tastes of a

young (14 years of age) soul boy were formed. Along with friend Dave Carroll (now of The London Leatherman) Mark 'Chip' Bailey (right) considered himself a committed follower of a cadre of stylish bands that included Bow Wow Wow and Theatre of Hate. Four decades later and his Re-Make Re-Model label revisits those heady days when a pair of pegs and a flat-top looked natural paired with a Westwood Pirate print.

www.remakeremodellondon.com



Munich Focus



Statement Store (Munich)

On the rugged scene since the start, proprietor Christian 'Josh' Heise supplies hip Munich men and women with Japanese denims and other heavyweight goods from brands such as Buzz Rickson's, Iron Heart, Eastman

Leather and First Arrows. On the edge of Munich's historic Old Town and a next door to the Red Wing Store, this one's a 'must' if you are in the Bavarian capital.

statement-store.com



Gross Real Wear (Munich)

Founded by Stefan Gross, this Munich emporium of style is situated on the other side of the Old Town and specialises in togs for the hip men who prefer a retro mood to their look. Holding an impressive range from legendary

Japanese shirt brands, Sun Surf and Style Eyes, rockin' cats can get everything they ever dreamed of in one place. Mr Gross also carries Filson, Tellason and Moon Equiped. Visit, when in town.

www.gross-realwear.com



Gasoline Alley (Munich)

Founder Burkhard Pflug is a legend amongst classic motorcyclists, especially associated with British motorcycles, in Munich and wider Bavaria. The Gasoline Alley store was the first (perhaps in Germany – even Europe), to match classic motorcycle culture with clothing and style, in a way that today is present in all world cities. However, in the early 1990s, it was

only Nick Ashley in London, fresh from trips to Japan, who saw the potential of bringing a plethora of subcultural styles together under one roof. Whoever was first, Gasoline Alley was very early and still sells a large selection of clothing and accessories associated with classic and custom motorcycles. It looks good and the vibes stay with you.

www.gasolinealley.de

Sweden Focus



Hepcat Store (Lund, Sweden)

On the upper right of the picture is Rob, who's holding a blanket with a picture of 'Rob' on it. He's the founder of Scandinavia's most visible emporium of Japanese and American clothing and accessories and a place you can't miss

if in the area. Don't go to Sweden that much? Don't worry, the website is vast. If you need a 'source' for niche and better-known rugged goods online, shop here.

www.hepcat.se



Jacqueline Davies (Artist)

A stalwart of the VHRA organisation, the insightful illustrator and visual commentator on all things old and fast has released a new group of prints for the walls of your home or workshop. Produced on quality art papers at A3 size, the subject matter is powerful in terms of horse power and aesthetic impact. You can order from Jacqueline's website, but make it quick as these are signed and numbered limited editions.

www.jacquelinedaviesart.com

Maglificiogrp

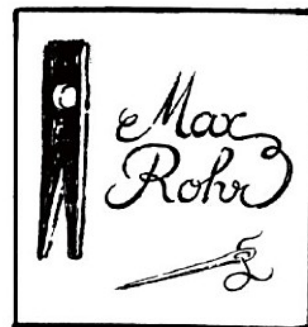
1973



The constant research for the best yarns, for new and original technical solutions to improve comfort and wearability, is combined with the taste for traditional Italian elegance in a hybrid style between contemporary and retro.



Cosmopolitan artist and vintage collector, Max Rohr works between Bolzano and Florence, he takes inspiration from objects of the past, he reworks them and always leads back to his own personal aesthetics.



Fine knitwear with a folk and country-chic inspiration, the name is a tribute to Isaac's home (from the movie Fanny & Alexander by Ingmar Bergman) which houses a multitude of sought-after objects, accumulated over generations, reminiscent of family roots.



MAGLIFICIOGRP.COM

Allevol in Berlin

Photography: Shinju Hitomi

Probably the only truly Japanese brand, that is based in London, Taka Okabe's Allevol leverages the best Britain and Japan has to offer. The Fukuoka native, now resident in the UK, finds some of the most directional work-wear, fashioned in denim, corduroy, sateen and chambray that Okayama can produce and matches these rugged items seamlessly with modified English and Scottish

heritage classics. Now a global brand, we see Allevol's 'Pat' Duffle (with a collar and detachable hood), paired with the brand's 'Roku, Roku' ('66) white straight-leg selvedge jeans, Chambray Work Shirt and Inverallan Indigo Shawl Cardigan, amongst Berlin's neo-classical architecture. Western Boots by Clinch. All available from Clutch Café. clutch-cafe.com



MISTER FREEDOM
7161 BEVERLY BLVD.
LOS ANGELES, CALIF. 90036



Hi Desert

www.misterfreedom.com



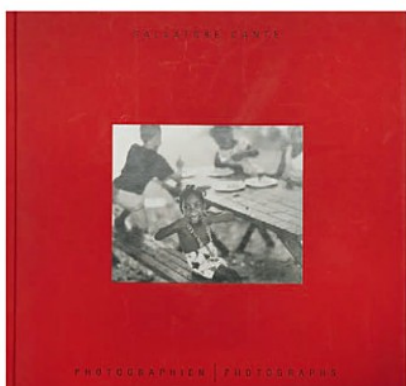


Black Bear Brand (Seattle)

On a recent visit to London by Black Bear Brand's founder Josh Sirlin, *Men's File* was able to meet the Seattle-based designer and adventurer and record his personal style. To create or (in this case) 'revive' a workwear brand, takes serious focus and Mr Sirlin has that in buckets. Bringing an ancient (since 1912) workwear company back to life and creating a genuinely exclusive collection, that complements Josh's commitment to riding his 1948 Panhead through any

weather the Pacific Northwest can throw at him, requires an innate taste and style, that combines with practical design skills. As can be seen in these photographs, everything Black Bear Brand makes is unique. Real clothing for real adventures, mostly made in the USA and Japan. See more on the website, that is both informative and beautiful – and sign-up for the newsletter.

blackbearbrand.com



You can buy Salvatore Cante's book and selected prints from his website.

Salvatore Cante (Photographer)

Text: Nick Clements

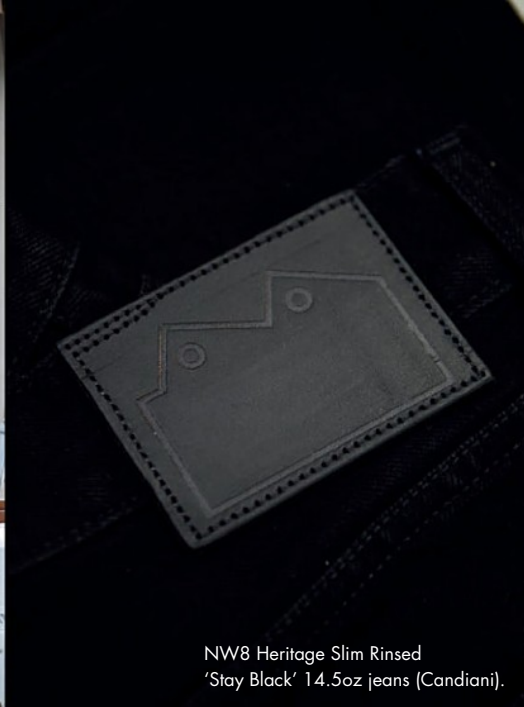
One of the wonderful things about editing *Men's File* is being introduced to the work of photographers across the globe from many backgrounds and working in a variety of exciting and unexpected styles. During a recent trip to Florence, I was fortunate to discover the work of Salvatore Cante, whose classic work is reminiscent of the greats of mid-century photography. What I call a 'real' photographer, the Italian places himself in locations where things happen (Greece, Bavaria, India,

Marocco etc.), and then instinctively recognises the 'decisive moment' and releases the shutter. A beautifully printed book of his work, entitled simply *Salvatore Cante* and sponsored by Unicef, shows the world as it was in the 1990s, before the internet and postmodern thinking. He almost certainly didn't realise it at the time (or perhaps he did), but these carefree moments will never happen again.

www.salvatorecante.com



E14 Straight Wide
Indigo 15.5oz
(Candiani).



NW8 Heritage Slim Rinsed
'Stay Black' 14.5oz jeans (Candiani).



Ilyya Sobtchak



BLACKHORSE LANE
ATELIERS
X
mens file
X
Candiani
DENIM



W10 Type II 13.75oz Denim Jacket (Candiani).



Leanne Jae



Blackhorse Lane Ateliers (London) x Candiani Denim (Milan)

It's been almost a decade since denim entrepreneur Bilgehan 'Han' Ates (right) started a small-scale, but highly productive, denim factory in Walthamstow, now one of London's hippest neighbourhoods – partly due to the existence of Blackhorse Lane Ateliers and Han's endeavours. Notable in this story is the long-term relationship the brand has had with Candiani, one of the world's most important denim weavers, with totally vertical and sustainable production (from raw cotton to finished denim). Situated in an impressive factory just north of the Italian capital, in which one section is dedicated the production of superior quality narrow-gauge, selvedge denim – made on ancient looms. Candiani cloth can match them all in strength, longevity and fades and is produced in a vast range of weights, colours and weave structures. To sample what Han's charismatic crew do with Candiani denims, visit the Blackhorse Lane Ateliers' Walthamstow factory or their stores in Coal Drops Yard (Kings Cross) and Berwick Street (Soho), or shop online. blackhorselane.com www.candianidenim.com



Bilgehan 'Han' Ates



DeeCee style (Zurich)

The 'go-to' for Japanese and American designs, when in Europe, the Zurich-based emporium (plus online store) reflects owner Markus Cadruvi's life-long commitment to collecting rare and interesting classic motorcycles and other objects that relate to a certain gentlemanly aesthetic. Based in the heart of the city, and accessible globally through their online store and newsletter, DeeCee style is the only place in Europe that represents such an eclectic group of brands, from the streets of Shibuya to the denim mills of Okayama.

deecceestyle.ch



Kapital



Kapital



South2 West8



Junya
Watanabe
Levi's



Blue Blue
Japan



Junya Watanabe



South2 West8



Double Helix



Needles



Cottle

Mister Freedom (USA)

Christophe Loiron's 'Hi Desert' collection has all the drama and pathos of that area of ancient soil we call the Morongo Basin. So hot in the day and cold at night, only the well dressed can survive its climate. Whether a seasoned explorer staying at one of the fabled desert inns at 29 Palms, or taking some old two-wheeled iron up to Palm Springs, Mister Freedom is the first place you might visit if you want to stay

cool and look hip. Perhaps this collection is inspired by John Houston's, *The Treasure of the Sierra Madre* (1948) or Robert Aldrich's *The Flight of the Phoenix* (1965) – who knows how a designer's mind works. What is clear is that Mr Loiron has mined history, like a prospector digs for gold, although the French-born Los Angeleno seems to find a rich seam of inspiration every time.

misterfreedom.com



Ranch Blouse 'Mojave'



Placer Overalls



Chinos Djebel



Homesteader Calico



Californian Hanada



Taskmaster Bib Apron with 'Joe Greene' (not for sale)



Wildcat Zip Jacket



Stanley Tee



Californian Hanada



Stanley Tee

Made in Japan, Sold Globally (The Stores)

Men's File continues to support and promote anyone selling rugged clothing and associated goods, especially if those items originate in Japan. Back in the 1990s there were just a few stores outside of Japan selling replica apparel and styles inspired by the early and mid-20th century. Today there are many fine emporia: Son of a Stag, American Classics, John Simons and

Rivet and Hide in London, Burg und Schild, Peter Fields and DC3 in Berlin, Second Sunrise in Stockholm, Thunderbird Store and Jinji in Paris, Kentorus in Cologne, Stuff in Düsseldorf, Ultra and Desii Vintage in Florence, Statement-store and Gross Real Wear in Munich, HepCat Store in Lund and DeeCee style in Zurich. However, there are more, many more, and we salute them all!



Allevol



Heimat



Tailor Toyo



The Real McCoy's

Clutch Café (Fitzrovia, London)

The Fitzrovia-based emporium of Japanese style is constantly updating its offerings of new Japanese brands and here we see a small sample. Apart from the items shown here, the store also carries The Groovin High, Sound Man, Porter

Yoshida, Coherence, Haversack, Cushman, Yuketan and Tailor Toyo – to name but a few. If it's from Japan and part of the style scene, you can probably find it here.

clutch-cafe.com



Buzz Rickson's



Eastman Leather



Eastman Leather



Heimat



The Real McCoy's



Hestra

Burg und Schild (Berlin)

Curated and styled by Kay Knipschild, Burg und Schild is located in the hip Mitte area of the city, and supplies customers throughout Germany, and the rest of Europe, through their extensive online shop. This well-stocked emporium carries a lot of exclusive and hard-to-find brands, like Buzz Rickson's, Eastman Leather and The Real McCoy's. This is where you can get the latest from Japan, that hits the fabled Rosa Luxemburg Str. the same time as Shibuya. Make this your first stop when touching down in Berlin.

www.burgundschild.com



1945 B15 Flight Jacket (olive)



1938 Baseball Jersey Van Buren (grey)



1942 Deck Zip Jacket (dark blue)



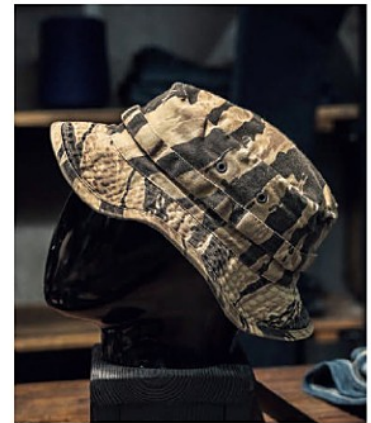
1928 Newsboy Cap Suffolk (brown)



1968 BCGs (tiger)



1965 Summer Socks US Navy



1966 Boonie Hat Tiger (gold)

Pike Brothers (Germany)

This extensive range of American military and European civilian clothing offers real value, priced to appeal to even the most careful buyer, but also offers masses of style – which is priceless. In this small selection of items, that reference the golden age

of baseball, the bomber crews of the US Army Air Forces and headwear from the epoch of Gatsby, we hope to inspire our readers to find out more about this leader in historic replica and vintage-inspired apparel. www.pikebrothers.com



Aircraft Restoration Co. Duxford (UK)

One of the world's leading builders, restorers and flyers of British WWII aircraft, the Duxford-based operation supplies planes and pilots for public joy rides, movie dog fights and historic research. Not everyone can afford half an hour seated in the cockpit of a Spitfire as it patrols the skies over

Cambridgeshire, but we can all get the t-shirt. Now available online, ARCo.'s genuinely stylish collection kick's off with a washed sweatshirt and a range of printed t-shirts.

www.aircraftrestorationcompany.com

THE BEST SALAMI IN TOWN!



Situato tra Modena e Ferrara, **Gabriele Calzolari** –il maestro col sorriso– seleziona con cura scatole sorpresa di specialità italiane nel suo negozio, spedendo in tutto il mondo.

Located between Modena and Ferrara, **Gabriele Calzolari** –the maestro with a smile– curates Italian specialty surprise boxes in his shop, shipping worldwide.

ANTICA FORMAGGERIA, VIA MATTEOTTI 3, PIEVE DI CENTO, ITALY.
TELEFONO: +39 347 8296219, EMAIL: GABRIELE.CALZOLARI@HOTMAIL.IT

THE
UNION



Raider Boots



USAAF Ball Cap



Skull Flight Cap

Flying Jacket Type
B-3.50Cal

Flannel Shirt



Chambray Shirt



ELMC / Eastman Leather (UK)

Following the theme of 'Flyers' for this issue, the supplier of replica military apparel (to Hollywood and beyond), has sent over a selection of flying clothing for our readers to enjoy, buy and wear! Yes, this stuff is so 'correct' it's sometimes hard to believe it's available to the public. You can purchase online, from a dealer or visit the showroom by appointment.

www.elmc.co www.eastmanleather.com

Stetson (Germany)

Constantly referencing, and sometimes updating, the back-catalogue of American headwear, the European arm of Stetson offers a vast range that suits 'scene' and 'non-scene'

customers. Whether a soul boy, 1940s re-enactor, urban-hipster or barrister in a Berlin coffee shop. These people have something totally 'correct' just for you. stetson.eu



Brownfield Wool Bucket Hat

Riding Hot Rod
Trucker Cap



Brascott Fedora Fur Felt Hat



Wool Check Lapeer Trapper Hat



Scratchy!

Wool is scratchy, itchy, irritating?

Not ours.

We use 100% virgin wool. When you just see 'wool' on the label it may have been used elsewhere. When it comes to quality clothing, virgin wool is the way to go. Due to the extra-long fibres, there are fewer ends to irritate your skin.

You can machine wash it too. Afterwards, it is as good as new because the wool fibres are getting their elasticity back. However, there is no need to do this often due to the natural oils in the virgin wool which are antibacterial and self-cleaning, a gift from Mother Nature.

WWW.HEIMAT-TEXTIL.COM

Wolle ist kratzig, juckt und reizt?

Nicht unsere.

Wir verwenden 100% Schurwolle. Wenn Sie auf dem Etikett „Wolle“ sehen, wurde diese möglicherweise bereits schon mal an anderer Stelle verwendet. Wenn es um hochwertige Kleidung geht, ist Schurwolle das Richtige: Aufgrund der langen Fasern gibt es weniger Enden, die Ihre Haut reizen können.

Sie können Sie auch, in der Maschine waschen. Danach ist Sie so gut wie neu da die Wollfasern Ihre Spannung wieder gewinnen. Sie müssen dies selten tun, da die natürlichen Öle in der Schurwolle antibakteriell und selbst sauerbernd sind, ein Geschenk von Mutter Natur.

HEIMAT
Qualitätsprodukte



Bolt London (UK)

The pioneer, that first brought hip styles and motorcycles into one East London space, is still breaking new ground with an exclusive baseball jacket made by Dehen of Portland and a collection of studded belts from Japanese

master leather-worker Ren Niiijima. If you are in London, you need to visit this store, that also stocks Pike Brothers and Heimat Textile.

www.boltlondon.com



Oldfield Outfitters (UK)

Joe Oldfield is a professional golfer, fashion designer and stylist who originally provided period golfing clothing for players wishing to hit the fairways in traditional attire. While this has been successful, other stylish individuals have discovered Oldfield Outfitters as a source of rarities such as

plus-6s, knitwear made to a pre-war pattern, country tailoring and accessories. This stuff is perfect for the vintage cyclist, sportsman/women or a city flâneur, casually traversing the built environment. Investigate this site on a regular basis.

www.oldfieldclothing.com



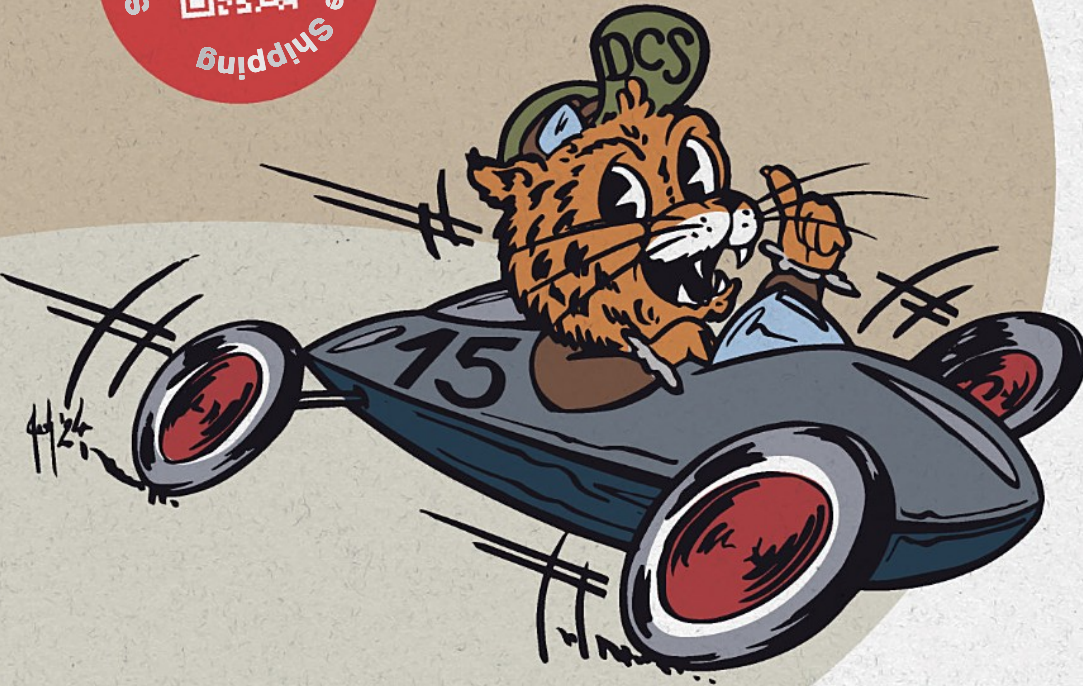
Sugar & Co. (Japan)

Japanese makers never seem to tire of creating classic and yet totally innovative items. Designer Shinya Takahashi of Sugar & Co. is producing this stylish denim jacket, with a three-layer waterproof membrane. Yes, that's right. This jacket can withstand serious rain and yet is still light, flexible and looks like regular

denim. It's hard to know why this hasn't been done before. We have been wearing this stuff at *Men's File* and can confirm that it works and gets a lot of comments. Their range of denims and associated goods is extensive and they do a denim peg-trouser called Daddy's Pants. You need to investigate. sugar-co.jp

15 Years of Style Excellence in Zürich:

Discover the World's Best in Every Stitch.



ディーシースタイル
DeeCee
style

outstanding sportswear

Follow us DeeCee style Talacker 21 8001 Zürich Switzerland
instagram deeceestylezurich www.deeceestyle.ch



Stone Island
Italy



Belstaff
United Kingdom



Junya Watanabe
Japan



Samurai Jeans
Japan



Birkenstock × Filson
Germany & USA



Flying Boots No. 204



Flying Helmet No. 200s



1939 Pattern RAF Boots.

Lewis Leathers

(London, Tokyo, Osaka)

With such a long history (since 1892), Lewis Leathers has provided riders, drivers and flyers with clothing that kept them warm and safe from the dangers inherent in travelling at speed. When times were good and the world was at peace, the brand has also been adopted by musicians, fashion designers and various underground scenes for its commitment to the task at hand – creating totally functional and long-lasting apparel. But when the going got tuff and duty called, D. Lewis (as it was then) made an extensive range of leather jackets, flying suits, flying helmets and footwear, as kit for RAF flight-crew, participating in the



Original advertisements for the pilot's Flying Suit (made to order).

defence of Britain. Today, you can still buy many of those items from Lewis Leathers (the Flying Suit is only made to order) for driving, riding, flying or just looking good.

lewisleathers.com

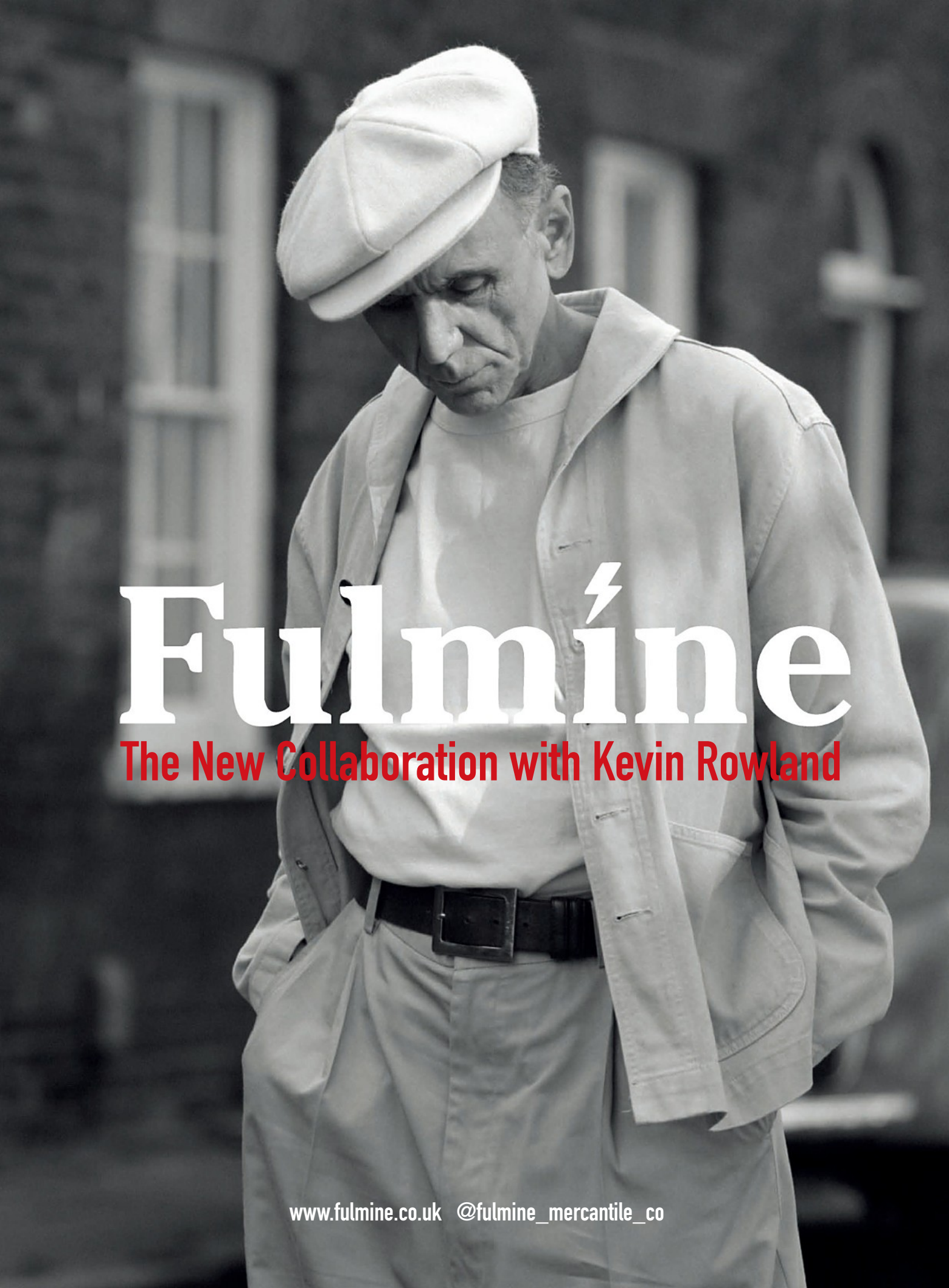


Hansen Garments (Denmark)

Much can be read into a name, and the moniker Hansen Garments gets straight to the point. The founder is Ms Aase Hansen and the company designs simple garments, that are both elegant and functional. However, there's more to the Copenhagen based brand, that has two stores in the Danish capital, as they have also been exponents of a certain

aesthetic that echoes an unexpected mix of Japanese zen and Scandinavian minimalism. For this winter the brand offers a significant range of coats and parkas, each with the Hansen signature and produced to the highest levels of quality in fabric and make. See them online or at your local dealer.

www.hansengarments.com



Fulmine

The New Collaboration with Kevin Rowland

www.fulmine.co.uk @fulmine_mercantile_co

Benci Brothers (Switzerland)

The renowned shoemakers are branching out into apparel that suits the chilly winters that manifest when so close to the high Alps. Living in, or close to, the mountains means being ready for just about anything and yet, if in a sophisticated city like Zurich, it's essential to be stylish. Years of experience has shown the Benci Brothers brand that 'layering' is the answer and offers this trinity of elegance and functionality. Furthermore, Benci Brothers are taking sustainable practices seriously AND produce low-impact clothing that actually works and looks good.

Outer layer: The microfibre parka that breaths and fades as you wear it, just like denim. Made from Japanese jersey, which was originally developed for the Japanese sailing industry, the parka is breathable, wind and water repellent and suitable for all weathers.

Under jacket: lightweight insulating jacket for colder days, the Eco-Down jacket is made from recycled nylon ripstop and offers maximum freedom of movement as well as thermal protection and can easily be worn under a parka. Thanks to the additional C6 coating, water resistance is enhanced, while the insulation made from 100% recycled PET material - produced from seven PET bottles per jacket - ensures excellent thermal performance.

Merino beanie: The beanie in this collection, made from 100% certified, mulesing-free merino wool, combines environmental awareness and comfort. Merino wool is known for its natural warmth, moisture-wicking and neutral odourless properties – ideal for cold days. **bencibrothers.com**



Skoob (Japan)

When it comes to the construction of classic work, motorcycle and military shoes and boots, Japan seems to be miles ahead of the pack. Led by Koji Sasano and Motoyasu Honda since 2011, the Skoob factory aspires to create the most comfortable, hardwearing and stylish shoes possible – using the Skoob brand since 2017. However, it's not as simple as 'quality and style' as Sasano also carefully selects

designs that reference the high-points in the history of 20th century footwear and here we show their version of the USMC Service Shoe in russet. You can see items from Skoob at dealers in Europe such as: East West Apparel (UK), DC4 (Berlin) and Stuff (Dusseldorf and Hamburg) – although they might not have this actual style, it can be ordered through your dealer.







PIKE BROTHERS

Quality Goods

www.pikebrothers.com



Hen's Teeth (Italy)

A Pescara-based brand, Hen's Teeth was founded by Davide Biondi (menswear) and Marianna Calabrese (women's wear) in 2017. They have been building a solid denim and rugged-wear collection over the years that has culminated in an unequalled set of denims, that includes this unique Wabash print bib-overall, jacket and vest. They also do a quality range of sweatshirts, bandanas and other great goods for men and women.

www.hensteeth.it



Iron Heart x Indigofera
Friendship Blanket

Iron Heart (Germany)

The heavy-duty denim and leather meisters from Hamburg continue to supply Europe with the best Japan and the USA have to offer in terms of jeans, outerwear, rugged shirts, luggage, boots and even subcultural jewellery and objects. If you were smart enough to purchase an Iron Heart Deck Jacket, shirt and jeans, then add Wesco boots and Porter-Yoshida & Co. luggage, it would be fair to say you would be set-up for the next decade. Heavy-duty every time.

ironheartgermany.com



Iron Heart
Oiled Whipcord N1 Deck Jacket (Khaki)



Iron Heart
Oiled Whipcord N1 Deck Jacket (Black)



Wesco Lace-To-Toe
Custom Jobmaster Boots



Porter-Yoshida & Co,
Force 3-Way Briefcase

Himel Brothers (Canada)

Every heritage brand seeks the golden ratio that balances tradition, craftsmanship and contemporary relevance. It's a sweet-spot that is hard to achieve and harder to maintain. Either by instinct or judgement (it's hard to know), founder David Himel

seems to have a knack in finding that point with impressive frequency. With the Himel Bros. Arrowhead pull-over motorcycle racing shirt, the big Canadian uses 'survival orange' as a point of difference and hits the mark again. himelbros.com



Orange
Arrowhead
Jacket





TRIUMPH

HERITAGE

QUALITY | WORKWEAR | MOTO - INSPIRED

SCAN TO SHOP:



**Blackhorse Lane Ateliers MEN (UK)**

Constructed from a soft Japanese denim, these deck pants are going to be comfortable and stylish from the first day. These are one of those gems you see others wearing, and wish you knew where they were from.

blackhorselane.com

**Blackhorse Lane Ateliers WOMEN (UK)**

The Walthamstow denim apparel makers have been making women's jeans for some time now, but this model seems to have a real 1950s mood and might interest some of our women readers. Made with denim woven on the ancient looms at Candiani Denim's Milan factory, this will wash and wear to perfection.

blackhorselane.com



Push-Button Shirt



Eiger Pop Over



Journey Coat - Wax



Jailhouse Mechanics Hat

Heimat Textil (UK / Germany)

Apart from producing an impressive range of knitted items, constructed in both heavyweight pure wool and lightweight merinos, the knitwear specialists are also releasing new styles in woven outerwear, shirts and pants on a regular basis. Their idea of the complete wardrobe, with a nautical flavour, works in all environments and all weathers. **heimat-textil.com**



Explorer Hat



CD-3 Gold Suede



Modesto 16 Ounce Indigo Denim



Faro Jacket 12 Ounce Vintage Blue



RJ-3 13 Ounce Indigo Denim



Riders Jacket Black Goatskin Leather

Freenote Cloth (USA)

San Juan Capistrano locals Matt and Andrew Brodrick have been fortunate enough to turn their enviable lifestyle in a small historic town at the southern edge of Orange County into an innovative and yet classic clothing brand. A place where everyone seems to drive a hot rod, skate and surf to insane levels and sometimes display gratuitous amounts of personal

style. It's in this environment that the founders of Freenote Cloth have combined a love of surfing and the rugged interests of their friends and colleagues into one directional collection after another. All made in the USA, this brand out 'Japans' Japan. Visit the website and sign-up to the newsletter to stay informed.

freenotecloth.com



Imprint (London) x United Athle (Japan)

Founded by fashion designer Luis Lopez Smith the Kings Cross studio offers a multi-media print and embroidery service that can apply your vision (personal or professional) to just about anything made from textiles. You provide the artwork and a brief for the final finish and they make it happen. In addition

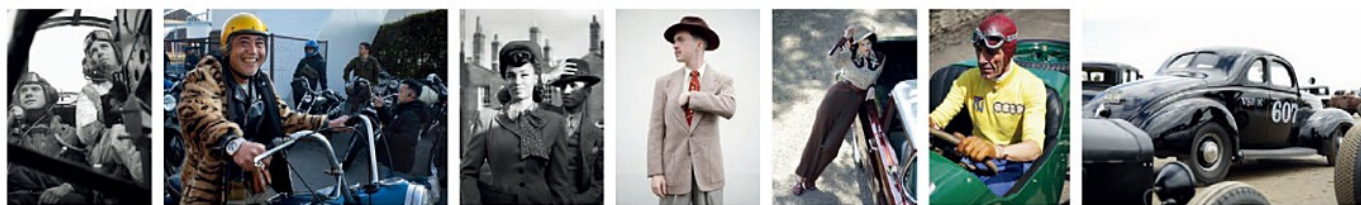
to this unique service, they also carry and extensive range from Japanese sportswear supremos, United Athle, onto which you can get your design printed. If you are a design studio or Japanese clothing fan, who wants something 'different', you need to visit these people. **imprint-works.co.uk**



IRON HEART GERMANY

HIGH QUALITY JAPANESE DENIM COUTURE

WWW.IRONHEARTGERMANY.COM



Contents

product file		06
makers file	Blackhorse Lane Ateliers (London) x Candiani Denim (Milan)	26
pro file	Black Bear Brand (Seattle)	28
	Mark Bailey: The New Soul Boys	33
	Alex Ripa's Journal of Style	48
	David Hemlin and Emilia Quayle (Berlin)	52
	Graeme Hardy: Engineer, Collector and Performer	64
book file	Salvatore Cante (Photographer)	28
vendor file		32
style file	The Bronx in Bloomsbury	36
	Kevin Rowland x Fulmine (UK)	38
	A Cornish Shrimper out of Mylor	46
	Nouvelle Vague: From the International Style to the Jet Age	72
auto file	1962 Lancia Flaminia Sport Zagato C3	40
	1958 Ford Ranchero Kustom	56
	1949 Tatra T600 Tatraplan	60
moto file	The 'Final' Triumph Riot 2024 (Japan)	42
events file	Union Showroom	50
	The Best Dressed at Goodwood (2024)	54
	Pendine Style 2024	68
military file	Spirit of Britain at Duxford Battle of Britain Air Show	76
	Inside the Blenheim	80

www.mensfile.com

Editor-in-Chief: Nick Clements
Art Director: Dan Black
Editor at Large: Matt Hind
Tokyo Editor: Taka Okabe

Sign up for newsletter now!



Photography: George L. Romain



Opening Shot: Why would we need AI, when we have reality?

1939 Bristol Blenheim Mk.IF (L6739), Battle of Britain veteran powered by two Bristol Mercury radial engines. Restored by the Aircraft Restoration Co. and the only flying example in the world. The image was captured at 8,000ft over the Fens

by George L. Romain from ARCo.'s 1953 T.6 Havard 'Taz' – also restored by ARCo. The Blenheim crew are all wearing period-correct flying equipment for the shoot.

www.aircraftrestorationcompany.com



Dear Readers

The globalised world that has bought us together through the pages of this journal, that celebrates our shared appreciation of mid-century style, now threatens to pull us apart as shipping costs for *Men's File* and *CLUTCH* seem to be increasing, almost exponentially. Printed in the heart of Tokyo, this journal makes its way across the world to you directly in a single envelope or boxed and palletted to your local dealer. The shipping costs are dependent on the weight of each copy, and for this reason we have joined *Men's File* and *CLUTCH* within the same cover and sought to use a lighter paper stock. I explain the specifics of these changes as I know that our readers are not the type of people who, although skilled at adaptation, let developments just pass unnoticed. In fact, it's our further shared interest in all matters technical and historic that enthrals us on another level. Thus, *Men's File* and *CLUTCH* are no longer arranged in a wrapper, but as a single magazine.

In this issue we meet the flyers, who through complex networks and years of research are able to recreate the visuals and mood of the airfields that protected Britain's vulnerable south coast and Home Counties during WWII. Sometimes known as the Brylcream boys, after the excessive amounts of hair cream used to slick-back their unruly locks, the original aces developed their own unique style. Today the military stylists

in this issue are part of an unparalleled recreationist group known as Spirit of Britain. Make no mistake, these are no 'small islanders' or 'little-Englanders' but diverse individuals with an international vision. Jamie, Simon, Jack, Alex, Lucy, Alan, Dicky, Derek, Freddie and all the others have been fortunate enough to team-up with the globally recognised Aircraft Restoration Co. at Duxford, that restores and flies WWII aircraft and can take you up in a Spitfire for the closest thing you will ever get to a real dog-fight over the green fields of Cambridgeshire. One of the founders of SoB, Jamie Delaney (the other being his dad Simon) is a military clothing dealer who heads-up Dalston's Blighty Militaria and can supply just about anything for the serious collector, professional stylist and hip individual, wishing to experiment with ancient military and civilian apparel – all are welcome.

Finally, we celebrate modernist design in our choice of featured autos, that include the Tatra T600 and Simca Aronde Plein Ciel, and aircraft with the Duxford-based ARCo Bristol Blenheim and the Shuttleworth Collection's 1934 Miles Hawk Speed Six. In fact, modernist style features throughout this issue with architecture from Amyas Connell's 'White House' and Zagato's Lancia Flaminia Sport. In terms of rare machinery, stylish clothing and uniquely creative individuals, there's very little globally that can match *Men's File*.

Nick Clements (Editor-in-Chief)



Cover Photograph:

Jamie Delaney of Blighty Militaria wears:
NEW t-shirt by Triumph Motorcycles, used
black flying suit (from Blighty Militaria).
Jamie's motorcycle is a 1939 Triumph
Tiger 80.

Contributors

Marco Annunziata, Fabian Fioto, Mike Spears, Zack Stiling, Ozdemir Mamodeally, Francesco Torricella, Monti Smith, Robin Mann, Jason Deets, Sebastian Frick, Heidi Zumbrun, Danny Spasic, Oscar Romagnoli, Duran Fulton-Brown, Masa Inoue, Kas, Kazuyuki Suzuki, Horst Friedrichs, Richard Okon, Farhad Samari, Josh Sims, Tom Bing, Fabio Affuso, Leo Francis, Michael Sabounchi, Matt Rabbidge, Tomoyuki Tatematsu, Sasha Valentine, Teruyuki Yoshimura, Travis Shinn, Brin Morris, Francois Turrou, Andrew B. Hurvitz, Kevin Peschke, Betsey Seymour, Gary Margerum, Gregor Schmatz, John Isaac, Zoltan Papp, Tim Scott, David Marvier.

LEWIS 1/-

EVERY
FRIDAY

For Style and Fit, Choose Aviakit

E A T H E R S



Check out the
**UNIVERSAL
RACER Mk 2
JACKET**

-it's top for toughness!

A Modern Magazine tracing the Roots of Style

men's file

**Simca Aronde
Plein Ciel**

Tatra T600

**The World of
Graeme Hardy**

**Air Crew Style
at Duxford**

**Ford Ranchero
Triumph's
New Heritage
Collection**

FLYERS

31 **AIRPLANES
& AUTOS**

**Kevin
Rowland
in London**

Jamie Delaney of Blighty Militaria
wears: NEW t-shirt by Triumph
Motorcycles and used black flying
suit (from Blighty Militaria).